

LET'S DO IT WORLD

# ANNUAL REPORT

# 2024

- 年次報告 -



# Contents

● Let's Do It World 代表からのメッセージ .....	2
● 担当ディレクターからのメッセージ .....	3
● Let's Do It World アンバサダー .....	9
● ミッション・ビジョン・ヴァリュー .....	14
● LDIW戦略 2024 - 2030 .....	16
● 私たちの歩み .....	23
● インパクト・モデル .....	25
● ネットワークとメンバーシップ .....	28
● 受賞歴 .....	30
● World Cleanup Dayの国連カレンダー登録認定 .....	32
● World Cleanup Day 2024 .....	34
● World Cleanup Day感動ストーリー .....	41
● グローバルプロジェクトとキャンペーン .....	50
● アドボカシー活動 .....	55
● パートナーシップ .....	57
● ファンディング .....	59
● 支援・協力パートナー .....	62
● 重要業績評価指標 .....	64



## Let's Do It World 代表からのメッセージ



Heidi Solba, ヘイディ・ソルバ

代表 兼 グローバルネットワーク長

過去1年を振り返ると、  
私は皆さん一人一人への感謝の気持ちで  
いっぱいです。私たちは共に、国境を越えて  
団結し平和的な行動を起こすことで  
計り知れない強さを示してきました。

この激動の時代において、私たちが環境保全に取り組むことは、単なるクリーンアップ活動にとどまりません。それは、人類への深い献身の表れであり、すべての人にとってより良い未来を築くという揺るぎない信念の証でもあります。

今年、World Cleanup Day (WCD) は、191か国から過去最多となる2,300万人の参加者を迎え、大きな成功を収めました。さらに、初めて国連の国際カレンダーに正式な記念日として加わるという歴史的な一歩を踏み出しました。各国政府、地域社会、団体、そして情熱あふれるボランティアたちが、Let's Do It World (LDIW) の卓越したネットワークのもとに結集しました。この素晴らしい成果は、私たちの動員力の証であるだけでなく、「協力こそが持続的な変化の礎である」という私たちの使命の本質を体現しています。不確実な時代にあっても、共に力を合わせることで、未来を切り拓く鍵となるのです。

私たちの活動は、単なる環境保全にとどまりません。健全な関係を育み、相互尊重の精神を深め、国や分野を超えた連帯を築くことの重要性を強く訴えています。気候変動の深刻化、政治的不安、経済の不安定さが増す世界において、冷静さを保ち、対話を促し、架け橋を築くことがこれまで以上に求められています。どんなに小さな行動でも、それが積み重なることで、より大きな変化へとつながることを忘れずにいたいものです。

このような時代において、市民社会や私たちのような団体の役割は極めて重要です。私たちは、課題に迅速に対応し、革新を促し、社会を持続可能な解決策へと導くために存在しています。しかし、この使命は私たちだけでは成し遂げられません。未来は、政府、各分野、そして地域社会がより強く連携することにかかっています。サステナビリティ（持続可能性）は特定の誰かの責任ではなく、すべての人が共有すべき目標なのです。

2025年に向けて、さらに強い結束と、協力の緊急性に対する意識の高まりを願っています。小さな行動も、皆で積み重ねれば大きな力となることを信じ、普遍的な価値観を大切に、互いを思いやる心を指針として歩んでいきましょう。私たちは共に過去から学び、感謝の気持ちを表し、平和のために、地球のために、そして互いのために、意志を持って行動していきます。

**心からの感謝と揺るぎない希望を込めて——Let's do it!**

## 担当ディレクターからのメッセージ



**Stephan Senghor**  
ステファン・センゴール  
アフリカ地域担当ディレクター

Let's Do It World のアフリカ地域ディレクターとして、困難な状況の中でも卓越した献身を示し続けている現地チームの素晴らしい活動に敬意を表します。彼らの揺るぎない環境保護への取り組みと地域社会の動員力は、まさに感動的です。2025年を迎えるにあたり、これからの課題と可能性について考えることが重要です。私たちはどのように協力し、影響力をさらに拡大できるでしょうか？地域社会の参加を促し、持続可能な取り組みを推進するために、どのような革新的な方法を探求できる

でしょうか？清掃活動にとどまらず、地域社会が持続可能な変化の原動力となるには、どのような支援が必要でしょうか？

地域ごとの状況に目を向け、草の根組織が持つ独自の知識を活かすことにより、本当に地域のニーズに響く、効果的な解決策を生み出すことができるのです。

**共に、すべての行動が意味を持ち、すべての声が届く未来を夢見て歩んでいきましょう。**



**Jose Roberto Garcia**  
ホセ・ロベルト・ガルシア  
ラテンアメリカ地域担当ディレクター

私たちは、課題に直面したときに「Let's do it!」と立ち上がる人々。世界が助けを必要としているときに手を差し伸べる人々。そして、地球をきれいにするために手を挙げ、何度でも挑戦し続ける人々です。2024年、私たちはラテンアメリカ全域でWorld Cleanup Dayの活動を展開し、環境保護への意識を高め、より良い取り組みを促進してきました。私たちは、世界を変え、すべての生命にとってより良い場所を築きたいと願う、何千もの若者、子どもたち、母親、父親、そしてすべての人々の声を代弁しています。

私たちは、街や川、ジャングル、都市、そして山々を清掃し、海岸から海岸へと広がる膨大なごみを取り除いています。人類が捨て続けるそのごみの量は、毎日80億キログラムにも及びます。学校、大学、公的・私的機関の支援を受けながら、World Cleanup Dayには、不屈の精神を持ち、より良い未来への信念と希望に

満ちた人類の姿を世界に示しています。私たちの活動を通じて、持続可能な行動の重要性を訴え、私たちの暮らしや日々のカーボンフットプリント（炭素排出量）への意識を高めています。

私たちは、「Let's do it!」の声を聞いたとき、その目標を達成できると信じ、どんなに大きな壁や高い山があろうとも挑戦を諦めない家族のような存在です。変化を望む気持ちさえあれば、行動を起こし、実現できると信じています。私たちはWorld Cleanup Dayであり、2024年には世界中で大きな環境へのインパクトを生み出しました。人間は、地球上で最も意識を持つ存在である一方、唯一ごみを生み出し続ける存在でもあります。だからこそ、この戦いはまだ始まったばかりなのです。

**世界を変え、未来の世代のために種を蒔き、2025年のWorld Cleanup Dayを史上最高のものにしていきましょう。**



**Agustina Iskandar**  
**アウグスティナ・イスカンダル**  
アジア地域担当ディレクター

2024年は、アジア地域にとって実り多い一年となりました。初めて、毎年開催している「リーダーズ・アカデミー・アジア」に加え、大規模なカンファレンスも開催し、同じ年に異なる国で2つの主要なイベントを実現しました。

これにより、地域としての結束が深まり、新たな取り組みをスタートするための貴重な勢いが生まれました。現在、東京に設立予定のアジアオフィスに向けて、アジアチームの構築を進めています。

特に、2024年4月にマレーシア・ペナンで開催された「ワールド・クリーンアップ・デー・インパクト&サステナビリティ・カンファレンス」は、大きな成果を上げました。アジア各国だけでなく、世界各地からリーダーが集結し、マレーシアチームの尽力によって実現した意義深いイベントとなりました。

また、2024年7月には、日本の大阪で「リーダーズ・アカデミー」を開催しました。このイベントは、参加者にとって非常に有意義で刺激的なものとなり、日本チームの多大な努力によって成功を収めました。大阪での時間を通じて、アジア地域の成長を支援するという私たちの使命を再確認し、アジアオフィス設立の方向性や、各国への支援体制について議論を深めました。

このネットワークの一員として活動する中で、私はより強く帰属意識を感じています。World Cleanup Day2024の成功のために尽力したリーダーやチーム、ボランティアの皆さんの姿に、日々大きな感動と刺激を受けています。最も大切なのは、私たちが互いに、そして地球を守るという共通の責任を持っていることです。

**リーダーの皆さん、チームメンバー、そしてボランティアの皆さんへ —— あなた方の貢献こそが、このネットワークの力の源です。本当にありがとうございました。**



**Nima Zare**  
**ニマ・ザレ**  
西アジア地域担当ディレクター

22の国々が豊かな歴史と活気ある文化を誇る西アジア地域では、多くの困難や紛争を抱えながらも、2024年のWorld Cleanup Dayを盛大に祝いました。西アジア地域のディレクターとして、2024年を通じて、特にWorld Cleanup Dayの際に、Let's Do It World ファミリーの皆さんが示した献身と情熱に深く感銘を受けています。

個人やチームの素晴らしい取り組みが、このムーブメントを前進させ、多くの人々を Let's Do It World の活動に引き込む原動力となりました。平和と紛争のはざまですustainableな未来を追求する西アジアの勇敢なリーダーたちから、私たちは多くのことを学ぶことができると信じています。

World Cleanup Dayでは、多様な背景を持つ人々が一つとなり、環境への想いを行動で示しました。組織的なクリーンアップ活動から革新的な教育イベントまで、私たちの取り組みは単なる

クリーンアップ活動にとどまらず、社会の中に誇りと責任感を芽生えさせるきっかけとなりました。

2024年には、新たにクウェートとウズベキスタンのリーダーがLDIW ファミリーに加わり、この地域でのネットワークがさらに広がりました。

2025年に向けて、これらの成果をさらに発展させ、より多くの人々や組織へと働きかけることを目指します。地域内のネットワークを拡充し、リーダーたちを支援することで、私たちの活動の影響力をさらに高めていきます。また、知識を共有し、協力プロジェクトを生み出す場を創出することで、それぞれの強みを活かしながら、共通のミッションに貢献できる機会を増やしていきます。

これまで私たちを突き動かしてきたエネルギーと決意を胸に、来たる新しい年を迎えましょう。共に変革を促し、革新を生み出し、未来の世代のために、より清潔で健やかな世界を築いていきましょう。

**このグローバルムーブメントの一員として、どんなに小さな行動も、大きな影響につながります。共に、素晴らしい未来を実現しましょう —— Let's do it!**



## Luan Hasanaj ルアン・ハサナジ

ヨーロッパ地域担当ディレクター

現代における最大の課題の一つは、分断が進む世界の中で人々を結びつけることです。しかし 2024年、Let's Do It World は、人々を共通の目的のために団結させることが可能であるだけでなく、それが驚くべき力を生み出すことを証明しました。

今年は、つながりと協力の素晴らしい取り組みとなりました。このムーブメントの真の強さは、あらゆる人々を対等な立場に導く力にあります。Let's Do It World は、年齢や性別を超え、アーティストからビジネスリーダー、市民社会から行政機関、さらには大小さまざまな国々までを結びつける、独自のプラットフォームを築いてきました。

World Cleanup Dayをはじめとする数々の取り組みを通じて、私たちは共に立ち上がることで、あらゆる障壁を取り払い、一つのグローバルファミリーとして、よりクリーンでヘルシーな地球を目指せることを示しました。この団結の力は計り知れず、ヨーロッ

パをはじめ世界中のコミュニティで、尊敬・平等・共通の目的意識を育む姿を目の当たりにできたことは大きな喜びです。

国境問題や社会課題がますます深刻化する中、私たちがこれほど意義深い形で人々を結びつけていることは、まさに驚くべきことです。文化の架け橋を築き、世代間の対話を生み出し、国境を越えたムーブメントを広げています。

この素晴らしい成果を祝し、この取り組みに関わってくださったすべての方々に、心から感謝を申し上げます。ボランティアの皆さん、リーダーの皆さん、パートナーの皆さん、そしてサポーターの皆さん——団結の力を信じ、この成功を支えてくださったことに感謝いたします。Let's Do It World は、人々が力を合わせることで、乗り越えられない課題など存在しないことを証明しています。

これからの未来に向けて、私たちにはこのグローバルな結束をさらに深め、持続可能な変化を生み出すチャンスがあります。

**共に前進し、直面する課題に立ち向かいながら、一つひとつの行動が、より持続可能な未来への一歩となるよう努めていきましょう。**





## Bill Willoughby ビル・ウィロビー

北米地域担当ディレクター

LDIW 北米地域では、地図やウェブサイトを活用した新たな高度技術の開発を積極的に進めています。また、自治体、企業、教育機関、各種団体において、ごみ問題や社会的責任に対する意識を高めるため、新たなマーケティング手法や目標を導入し、地域内の大規模な NGO と連携しながら活動とリソースの共有を行っています。その結果、ごみやプラスチック汚染に対する認識が着実に高まっています。

私たちは、多角的なテクノロジーとマーケティングプラットフォームを活用し、World Cleanup Dayの重要性を広めることで、特にプラスチックごみの適切な管理ができていない問題に取り組んでいます。この取り組みにより、地域全体で重要な政策議論や具体的なアクションが生まれています。

私たちの根本的な信念は、「人々は道徳的に正しいと思われることをしたいと願っている」というものです。それには、それを後押しする少しの励ましや動機付けが必要なのです。

もしLet's Do It Worldのムーブメントがさらに多くの人々を巻き込み、地域社会でのクリーンアップ活動を活性化させることができたなら —— どれほど素晴らしい変化が生まれるでしょうか。



## Pål Mårtensson パル・マルテンソン

オセアニア地域担当ディレクター

旅行雑誌に載っている「楽園」の裏側には、決して目にする事のないもう一つの現実があります。これらの場所には、世界中から大量のごみやプラスチックごみが流れ着いています。太平洋の海流は、各国から流出したプラスチック汚染を運び込むだけでなく、国内の消費拡大や大規模な観光業の影響によっても、環境問題が深刻化しています。これらの問題はすべて密接に関係しているのです。

オセアニアには、世界最大のサンゴ礁であるグレート・バリア・リーフがあります。しかし、気候変動による海水温の上昇や海洋酸性化によって、サンゴ礁は深刻な脅威にさらされています。また、微小なプランクトンから壮大なクジラに至るまで、あらゆる海洋生物がプラスチックごみによる絡まりや誤飲によって命を落としたり、深刻なダメージを受けています。これにより、生態系全体が崩れ、野生生物の生活の質や繁殖能力が低下する悪循環が生まれています。

しかし、オセアニアでは、廃棄物管理に関するいくつかの将来性のある取り組みも進んでいます。バヌアツは2018年に使い捨てプラスチックバッグ、ストロー、発泡スチロール製の食品容器を禁止しました。キリバスでは、容器のデポジット制度が導入され、サモアでは商業施設の排水を処理する水処理プラントが稼働しています。また、「Let's Do It World」をはじめ、「The Ocean Conservancy」、「Surfrider Foundation」、「American Littoral Society」、「Ocean Blue Project」などの団体が、定期的にボランティアによるビーチクリーンアップ活動を実施しています。

私たちはオセアニアの多くの国々で活動を展開しており、World Cleanup Dayには多くの参加者が集まり、それぞれの地域で着実に前進しています。この繊細な環境を守るために、地域ごとに可能な範囲で行動し、協力しているすべてのコミュニティを私たちは応援しています。良い例としては、「太平洋地域の廃棄物管理戦略」や「太平洋海洋ごみプロジェクト」が挙げられます。さらに興味がある方は、各都市の最新の汚染指数がオンラインで確認できるので、ぜひ調べてみてください。



## Anett Linno アネット・リンノ

NGO法人Let's Do It World CEO

2024年はLDIW (Let's Do It World) にとって、最も成功した World Cleanup Dayの年として歴史に刻まれます。191以上の国々から2,300万人以上が世界中でクリーンアップイベントに参加しました。タリンのコール・アンド・メディアセンターは9月20日と21日の2日間、リーダーたちに電話をかけ、ネットワーク全体から目覚ましいストーリーを集めるために全力を尽くしました。11時間の放送は、クリーンアップ現場から視聴者へ感動的なインタビューを通じてライブで届けられました。私たちのパートナー、アンバサダー、科学者、政府代表者たちは、世界的なごみ問題に対するさまざまな地域での取り組みについてインスピレーションを呼び起こしてくれるようなストーリーを共有しました。2024年のプログラムは、海洋ごみと北極の汚染に焦点を当てていましたが、ノルウェーのトロムソではWorld Cleanup Day国連国際カレンダー登録イベントも開催されました。

本部の財政資源が非常に限られた年にWorld Cleanup Dayが最も大きなスケールで開催されたことは皮肉なことです。私たちのネットワークの力を明確に示しています。世界中のチームに所属する献身的な人々が非常にプロフェッショナルに、個別に、かつ積極的に活動していることが証明されました。

私は個人的にWorld Cleanup Dayを組織し、同時にグローバルネットワークの活動や組織運営に時間とエネルギーを捧げているすべての人々を尊敬しています。これらの人々は、総会や理事会、作業グループ、ウェビナー、その他の地域および国際的なイベントに積極的に参加しています。私は、自国で年次会議を開催するために立ち上がった人々や、地域会議やリーダーズ・アカデミーを開催した人々に心から感謝しています。このようにして、私たちのグローバルネットワークは将来に向けてさらに協力し合い、ネットワークを結びつけ、維持していく方向に進んでいると感じ

ています。私たちは皆、一つの目標に向かって取り組んでおり、年に一度は必ず顔を合わせることが重要です。そうすることで、素晴らしい思い出を作り、ストーリーを共有し、お互いにサポートし合うことができます。今年、私たちを一つにしてくれたすべての人々に感謝します！

Let's Do It Worldは、2024年6月初旬に2024-2030年の戦略を完成させ、重要な節目を迎えました。この戦略作業グループには、ネットワーク内の多くの献身的なリーダーたちと本部からのメンバーが参加し、私たちの組織の未来を形作るために貢献しました。次の5年間の主要な焦点として6つの作業分野が特定されました。

私はこの戦略を2つの主な方向性にまとめることができます：学びの組織になること、そしてその活動のインパクトを科学的に測定することに向けてさらに進むこと。この2つの方向性により、地域レベルでの廃棄物管理政策と実践をより効果的に形作ることができるようになります。私たちは皆、世界的な変化は地域の行動から始まることを知っているからこそ、人々をこの分野の専門家、プロフェッショナルに育てる必要があります。

私は、Let's Do It Worldネットワークへの再参加という人生の大きな喜びに心から感謝しています。このネットワークで、クリーンで健康的な環境というビジョンと夢を支え続けているすべての人々に感謝したいと思います。共に、私たちは未来の世代に、「私たちは最も重要な時に行動した」と伝えることができるでしょう。また、組織とネットワークへの揺るぎない献身を示してくれているすべての人々に心から感謝します。

**あなたたちは注目され、大切にされています！2024年を共に創り上げてくれてありがとう。**



World Cleanup Day コソボ

## Let's Do It World アンバサダー

Let's Do It Worldは、  
すべての支援者、アンバサダーの  
皆様に心からの  
敬意と感謝を捧げます。

皆様の献身と情熱こそが、私たちの組織の力強い原動力となって  
きました。世界各地にポジティブチェンジへのメッセージを広め  
て、共に描く夢の実現に向けて、欠かせない役割を果たしてくだ  
さっています。

### Let's Do It World 後援者



**Ursula von der Leyen**  
ウルズラ・フォン・デア・ライエン  
欧州委員会委員長

「私は、World Cleanup Dayの後援者であることを誇りに  
思います。私たちは地球への向き合い方を変え、その資  
源を大切に、生物多様性を守らなければなりません。誰  
もが、そしてどんな人でも、この取り組みに貢献でき  
ます。」



**Roberta Metsola**  
ロベルタ・メツォラ  
欧州議会議長

「汚染、廃棄物管理、資源の持続可能性は、私たち欧州議  
会が真剣に取り組んでいる課題です。だからこそ、World  
Cleanup Dayのような運動が重要なのです。環境に優し  
い未来を追求し続けるために、皆さんのリーダーシップとご  
み問題への献身的な取り組みは、非常に称賛に値します。」



## Let's Do It World アンバサダー


**Faatiha Aayat**  
**ファーティハ・アーヤト**

World Cleanup Day ユースアンバサダー

ファーティハ・アーヤト氏は、バングラデシュ出身で現在はアメリカ・ニューヨークに住む11歳の7年生です。World Cleanup Dayのユースアンバサダーであるだけでなく、子どもの権利活動家、気候キャンペーン活動家として、地球温暖化、気候変動、炭素排出、化石燃料などの問題に対して積極的に声を上げています。

また、彼女は4冊の本を出版しており、ハーバード大学の継続教育学部が提供する「リーダーになるためのプロフェッショナル開発プログラム」を修了しています。ユースアンバサダーとしての

小学校卒業時には、「優れた学業に対する大統領賞・金賞」を受賞しました。

ファーティハ氏は「CHILandD」という自身の組織を運営し、気候、健康、情報、学習、発展に関する活動を行っています。国連環境計画 (UNEP) 主催の「My Goal – For A Better Future」においてチャンピオンに選ばれました。さらに、彼女が設計した火星探査車「パーサヴィアランス」とヘリコプター「インジェニユイティ」のプロトタイプ (原型) は、NASAのジェット推進研究所での展示にノミネートされました。

また、「アドヴェナ・ワールド・アート・コンペティション」の「脅威にさらされる海洋」部門で、アメージング・アーティスト賞を受賞しました。


**Christine Figgene**  
**クリスティン・フィグナー**

World Cleanup Day アンバサダー

クリスティン・フィグナー氏はドイツの海洋保護生物学者、作家、科学コミュニケーター、海洋アドボケートであり、ウミガメの保護とプラスチック汚染との闘いの活動で知られています。

「ウミガメの生物学者として、私は15年以上にわたってプラスチック汚染が海洋生物に与える痛みや苦しみを目の当たりにしてきました。すでに絶滅の危機に瀕しているウミガメは、プラスチックを摂取し、プラスチックのためにヒレ足や体の一部を失い、その結果、ゆっくりと痛みを伴う死を遂げることがよくあります。

ウミガメが直面する脅威はこれだけではありません。消費中心の経済から生じる、私たち人間の便利さを優先したライフスタイル、そして個々の人々の行動から生じている脅威なのです。プラスチック汚染の危機は世界的な問題です。多くの場

合、一人では解決できず、集団でなければ解決できない圧倒されそうなほど大きな問題です。

当然のことながら、World Cleanup Day のアンバサダーに任命され、人々を結集し、自らの役割を果たすよう鼓舞する世界的な取り組みに携わることができたのは大変名誉なことです。また、World Cleanup Dayに参加し、すでに起こってしまっている被害を修復し、WCDの日だけでなくその後もプラスチックのないライフスタイルと意識ある消費ロールモデルとなることは大変光栄です。」





## Kristjan Järv クリスチャン・ヤルヴィ

World Cleanup Day アンバサダー

クリスチャン・ヤルヴィ氏は、エストニア/アメリカの著名な指揮者、プロデューサー、作曲家、編曲家です。

「Let's Do It World は、意義を生み出し、人類を次のレベルへと引き上げる機会を与えてくれる必要不可欠なものです。Let's Do It World の環境活動には、個人、地域、世界、すべてのレベルが関係しています！」

自分自身や環境に対して責任を持つことで、私たちは新しい現実を作り上げることができます。何をすべきで、何をすべきでないかの決断に向けての人類の姿勢は、確固たるものとな

りました。エストニアから世界へと発展したこの運動は、エストニア人の考え方の大きさ、自然との関わり方や自然そのものを雄弁に物語るものです。」

Let's Do It World は、世界中の市民による素晴らしい貢献であり、世界を一つの考え方で結びつける模範となる取り組みです。」



## Merle Liivand メルル・リーヴァンド

World Cleanup Day アンバサダー

メルル・リーヴァンド氏はエストニア・タリン出身の競泳選手、モデル、アクアプレー、SWIMERA CEO、AMBASSADOR、トライアスロン選手、国際広報担当、オープンウォータースイマー。彼女は主に、現代の生きる人魚と氷の王女として知られており、水の世界に対する情熱と人生の探求をし続けています。

彼女は、海洋に関する法律を変えました。また世界経済フォーラムは彼女を気候変動と海洋汚染に関するフロントボイスに任命しました。マイアミビーチの市長は、彼女の誕生日である4月17日を「メルル・リーヴァンドの日」と命名したほどです。

彼女は4つのギネス世界記録を持ち、アスリートとして、また海洋アンバサダーとして、その道を歩み続けています。昨年はハリウッドのショートフィルム賞を受賞し、グローバルインフルエンサーに選ばれました。

彼女の最大の夢は、PLASTDEMIA（彼女自身の造語で、プラスチック感染症）の汚染から解放され、地球上のすべての面がきれいになるのを見ることです。



## Elina Nechayeva エリナ・ネチャエワ

World Cleanup Day アンバサダー

エストニア出身のソプラノ歌手、エリナ・ネチャエワ氏は、オペラ界の新星として、世界中のコンサートや劇場のステージで活躍しています。エリナ氏は、重力の影響を受けない自由な歌声を持ち、そのカリスマ性は、クラシックの愛好家だけでなくポップミュージックのファンも魅了しています。

エリナ氏はエストニア代表としてユーロビジョンで「ラ・フォルツァ」を披露しました。2022年に、地球の未来に対する痛切な思いを表現した新曲「Planet B」をリリース。

この星を壊してしまったら、空の彼方にもうひとつの故郷、第2の星はないのだと、彼女は音楽を通して語ります。地球は1つしかないのです！私たちの美しい緑の地球を、そしてお互いを大切にしましょう。私たちは1つです！

エリナ氏はこの曲の収入の半分をWorld Cleanup Dayの成功のために寄付しています。



## Johann Urb ヨハン・ウルブ

World Cleanup Day アンバサダー

ヨハン・ウルブ氏は、エストニア系アメリカ人の俳優、プロデューサー、エネルギーを熟知していることで名高い自己啓発コーチであり、ピラミッド・プレス・メソッドの創始者です。

ヨハン氏は人々が自分自身を受け入れ、自己探求の旅に導かれるよう支援し、その過程で彼らの全ての側面を包括するよう尽力しています。彼は深い洞察力で、目的あるバランスの取れた人生を追い求めている人々奮起させ、勇気づけ続けます。

「経験を共にすることによってコミュニティが成長するのは自然のこと。人々を団結させれば大きくなり親密さが増します。私は人々と一緒に内面からのクリーンアップを行っており、World Cleanup Dayは外の環境に取り組むことを奨励しているので、ぴったりフィット。私たちは内面からクリーンアップし、外もクリーンアップします！

私たちは一緒に協力することでより良い結果を得ることがで

きます。内面と外面は同じであり、上と下も同じです。どちらも相互に影響し合うことで共通の価値観が純粋に一致することを表しています。

皆さんも目を開いて目の前の世界を見てほしいと思います。力強い行動、創造的な瞑想、それらすべてとの真のつながりを感じながら。本当の一体感、それこそ私がWorld Cleanup Dayにもたらしたいものです。」





メルル・リーヴァンド・アンバサダーとビーチクリーン、ニューヨーク市

## ミッション・ビジョン・ヴァリュー

Let's Do It World (LDIW) は、  
集団の行動と前向きなパートナーシップの  
力こそが、重要な変革をもたらす  
原動力であると確信しています。

ごみのない世界を取り戻す道のりには、社会のあらゆる分野が  
団結して取り組むことが求められます。

私たちはすべての協力の場にも楽観性、希望、そして透明性をもたらし、  
背景を問わず、必要な解決策に貢献したいと願うすべての  
人々に対して、広く参加を呼びかけています。



## ミッション

私たちは、持続可能な変革を推進するために、個人、地域社会、組織、政府が協力し、廃棄物管理の改善と分野を超えた連携を促進することを目指します。

## ビジョン

ごみのない、健全な世界

## ヴァリュー

### ポジティブさ

私たちは楽観的かつ積極的な姿勢を大切にし、前向きな思考が私たち全体の意識に与える影響を信じています。

### 包括性

すべての人が地球環境の守り手となることを歓迎し、誰もが尊重される環境を築くことを目指します。  
また、国境を越えた団結によって協力の障壁を乗り越えることを奨励します。

### 責任

私たちは、一人ひとりが持続可能な文化と地球環境の健全性に貢献するための前向きな行動に責任を持つことを促します。

### 透明性

私たちは開かれたコミュニケーションを実践し、情報が自由に流れる環境を積極的に支援します。また、組織運営や財務を含む意思決定の透明性を維持します。

# LDIW戦略 2024 - 2030

2023年11月、私たちは戦略ワーキンググループを結成し、今後6年間のLDIWの未来を共に構想し、創り上げることを目指しました。戦略ワーキンググループはアド・ルフムス氏のリーダーシップのもと、ネットワーク内の多くのメンバーが貢献しました。

LDIWの戦略策定プロセスに参加してくださった皆さんに心からの感謝を申し上げます。6つの戦略的重点ポイントがあります。

## 強固なLDIWを支える持続可能な資金フロー

持続可能な資金調達には、世界中に影響のあるプロジェクトを実施するための基盤です。LDIWは、政府機関、国際機関、企業、財団とのパートナーシップを積極的に構築し、キャンペーンやプロジェクトのための助成金や資金を確保しています。

また、環境保護に熱心な個人や企業と関わり、寄付、スポンサーシップ、企業の社会的責任（CSR）活動を通じた支援を促しています。

財務報告の透明性は、寄付金の活用方法について説明責任を果たすことで、信頼性を高めています。さらに、LDIWは世界各地で資金調達イベントを開催し、収益の創出だけでなく、地域社会の参加と環境保護の啓発を推進しています。



財務の透明性は  
資金の用途に対する  
説明責任と信頼を保証



### 2030年までの目標

- LDIW本部のための恒久的な資金調達を確立し、少なくとも5つの多様で安定した資金源を確保する。
- 緊急時に備えた予備基金を設立する。
- クリーンアップ活動、プログラム、開拓のために、最低でも1,000万ユーロの追加資金を集める。

## 国連カレンダーでWCDの影響力を拡大!

共に効果的なごみ処理政策の  
採用と実施を  
強く推し進めましょう。



WCDは国連の「国際デーと国際週間」の公式カレンダーに登録され、世界規模のマルチステークホルダー協力プラットフォームとしての役割を果たしています。LDIWはUN-Habitat（国際連合人間居住計画）と積極的に連携し、2024年以降のWCDイベント（コール&メディアセンター、WCDライブ放送、LDIWカンファレンスなど）の開催国を募集しています。

世界をリードする「ウェイスト・ワイズ・ネットワーク（ごみ問題に精通したネットワーク）」として、LDIWは環境問題への世界的な意識を高め、志を同じくする組織、政府、企業と協力し、廃棄物管理の課題に対する統一戦線を築いています。

共に力を合わせ、効果的な廃棄物管理政策の採用と実施を促し、優れた事例を共有しながら持続可能な取り組みを支援します。LDIWは、UN-Habitatの「Waste-Wise Cities Platform」諮問委員会のメンバーであり、2024年末にはUN-Habitatのナレッジパートナーにも認定されました。

### 2030年までの目標

- UN-Habitatとの恒久的なパートナーシップを確立する。
- WCDの世界的なブランドアンバサダーを迎える。
- 3つの異なる地域で国連国際デーの開催国を確保する。
- 国連機関との効果的なパートナーシップを通じてWCDを積極的に推進し、全加盟国で認知度を高め、世界人口の5%（約4億～4億1,000万人）の参加を実現する。



## 教育プログラムとアドボカシー



私たちは、ごみによる環境への影響に対する意識を高め、持続可能な実践を推進するために、教育プログラム、ワークショップ、啓発キャンペーンを通じて、学術機関や民間組織に働きかけています。

個人や地域社会がより意識的な選択を行い、ごみの削減と責任ある資源管理が日常生活の一部となる世界を目指しています。

実践的な体験型のプログラムを通じて、幅広い持続可能性の概念を取り入れながら意識向上を図り、すべての参加者が健康でごみのない世界に向けて、より積極的かつ継続的に貢献できるよう促します。

また、企業とのパートナーシップを築き、CSRやESGの目標達成を支援する研修プログラムの開発を継続します。さらに、学校や大学、その他の教育機関が環境フレームワークをカリキュラムに統合することを奨励します。

LDIWでは、各プログラムを修了した参加者に修了証を発行します。

### 2030年までの目標

- LDIWナレッジハブを設立。
- 民間企業の環境意識向上を支援する研修プログラムを開発。
- LDIWネットワークの各国リーダー、または指名されたチームメンバーの25%が、LDIWナレッジハブの教育プログラムおよびゼロウェイスト関連トピックを提供できるよう認定。

ごみの削減と責任ある資源管理が  
日常生活の不可欠な要素となる世界をつくる



## 測定可能なインパクト(LDIWインパクトモデル)

LDIWのさらなる広い目的は、ごみの管理に社会の変革を促すために、人々を巻き込み、教育し、変革の触媒となることです。

私たちは、LDIWの取り組みの影響を測定・評価するために、LDIWインパクトモデルを開発し、その効果を明確に示すことに尽力しています。

包括的なインパクトモデル評価プロセスと透明性のある報告を通じて、私たちはごみの削減や環境保全、地域社会の福祉におけ

る共同の取り組みの具体的な成果を示すことを目指しています。

私たちの最初のインパクトモデルは、World Cleanup Dayをはじめとする主要プロジェクトの測定可能な成果に基づいて作られます。このモデルは、科学者やその他の関連分野の専門家(SME)で構成される諮問委員会と協力して策定されます。また、このモデルは、地方や中央の政府と連携し、廃棄物管理を促進するためのベストプラクティスを共有することにも活用されます。

私たちは、ごみの削減、環境保全、  
地域社会の福祉における共同の  
取り組みの具体的な成果を示すことを  
目指しています。



### 2030年までの目標

- 科学者、研究者、学者、活動家などの専門家(SME)で構成される諮問委員会を設立する。
- インパクトモデルのより広範な適用に向けて、2030年以降の将来目標を特定するための明確な道筋を定める。
- LDIWのインパクトモデルを現実の環境で開発・試験・評価する。



## 高度な専門性を持つ、LDIWネットワークから選出されたサステナビリティ専門家

### 環境課題に取り組むために連携する サステナビリティ専門家の グローバルネットワーク



LDIW本部は、環境課題に対応し、サステナブルな取り組みを世界中で推進するために、サステナビリティ専門家のグローバルネットワークを構築し、協力体制を強化することを構想しています。このネットワークは、LDIWの枠組み内での能力向上を図ることで、持続可能な実践を促進します。

このグローバルネットワークは、知識交換と能力開発のための強固なプラットフォーム、いわゆる「ナレッジハブ」を確立することを目指しており、本部のラーニング&デベロップメント（学習・開発）チームが支援・育成を行います。

このプラットフォームを通じて、サステナビリティに関するベストプラクティス、研究成果、革新的なアプローチを共有することが可能になります。また、スキル向上のためのワークショップ、ウェビナー、ピア・ツー・ピア（相互学習）システム、協力プロジェクトを通じて、新たな課題への理解を深め、環境保全のための効果的な戦略を策定していきます。

本部に設置されるラーニング&デベロップメントセンターは、グリーンプロジェクトや持続可能な取り組みのアイデアを見出し、それらをナレッジハブを通じて展開できる実用的かつ有益なプログラムへと発展させていきます。

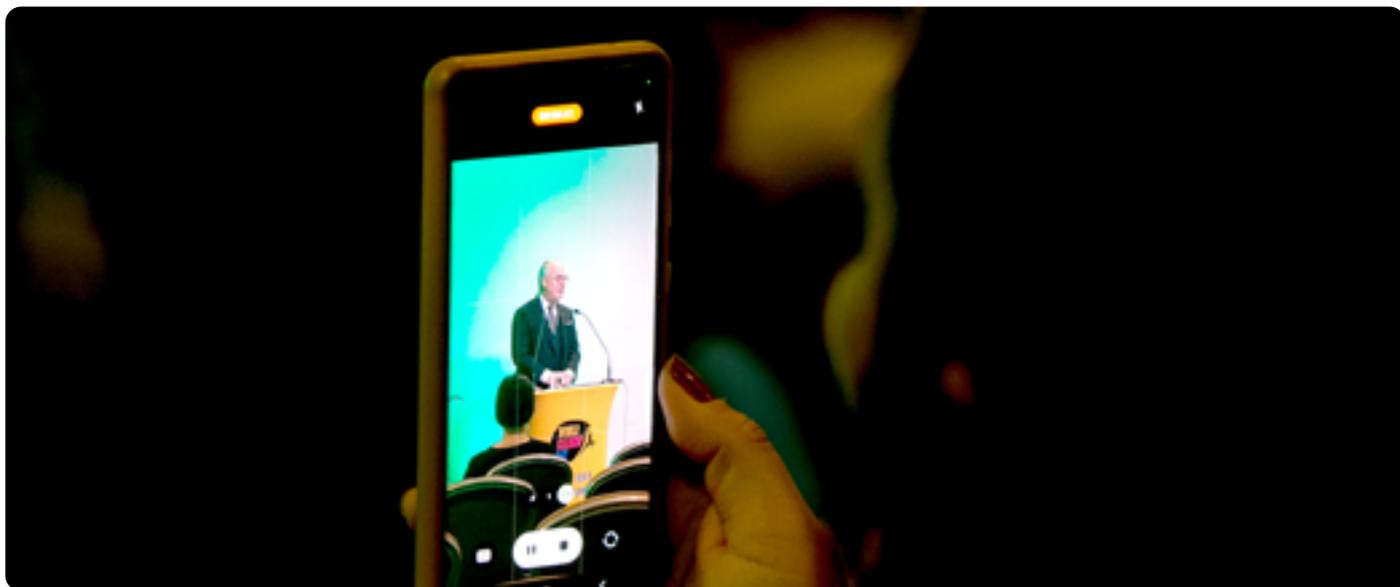


#### 2030年までの目標

- ナレッジハブを通じて、ネットワークメンバーのスキル向上のための検証済みプログラムを確立し、展開する。
- LDIWを、環境調査・プロジェクトなどに関するコンサルティングサービスの公認パートナーとして、地域・国内・国際レベルで確立する。



## デジタル・クリーンアップとグリーンICT



このワークストリームのビジョンは、LDIWをデジタル・サステナビリティ分野のリーダーとして確立することです。長期的な目標は、サステナビリティ認証のセントラルハブとなり、組織に認証を付与することで説明責任を果たして信頼性を高め、戦略的インフルエンサーとなることです。

### デジタル・クリーンアップ・デー (DCD) の目的:

- テクノロジーが環境に与える悪影響についての認識を高める
- デジタルフットプリントによる環境負荷を軽減するための積極的な行動を促す
- Green ICT (グリーン情報通信技術) の原則を活用し、テクノロジーの持続可能な利用を推進する
- 不要なデータ (重複した写真や動画、不要な大容量ファイルなど) を特定・削除する行動を促し、デジタル・クリーンアップ・デーに誰もが参加できるようにする

デジタル・クリーンアップを通じて、私たちはデジタルごみの影響を明確に示します。特に、過剰なエネルギー消費や、毎年何千トンもの温室効果ガスの無駄な排出といった問題に焦点を当てます。

LDIWは、グリーンICT目標の推進には協力が不可欠であると認識しています。産業界のリーダー、政策立案者、学術機関、市民社会団体と協力し、より持続可能なICTエコシステムの発展に向けた集団的な行動を推進していきます。

産業界のリーダー、政策立案者、  
学術機関、市民社会団体と協力し、  
集団的な行動を推進していきます。



### 2030年までの目標

- デジタルごみの専門家を20名育成。
- メディアに呼びかけ、デジタル化とデジタル・クリーンアップの関連性を広める。
- LDIWの50%以上の国別チームがDCDを実施できるようにする。
- デジタルごみ対策の中心的なハブとなり、サステナビリティ認証を企業に付与できる立場を確立する。



## 私たちの歩み

Let's Do It World (LDIW) は、  
世界最大の環境団体として認識されて  
おり、現在164カ国に広がるネットワークを  
持ち、世界的なごみ問題の解決に  
取り組んでいます。

2019年に正式にNGOとして設立されたLDIWは、World Cleanup DayとDigital Cleanup Day (DCD) という主要イベントを通じて、数百万人の人々を結集しています。

LDIWの物語は2008年のエストニアで始まりました。『Teeme Ära』（英語でLet's Do It!）というイニシアチブのもと、5万人のボランティアがわずか5時間で1万トンのごみを回収しました。この驚異的な成果が世界的なムーブメントの火付け役となりました。2011年には、このビジョンを国際的に展開するためにLet's Do It Foundation が設立されました。

そして2019年にLet's Do It World がNGOとして設立されたことにより、系統化された枠組みが確立され、世界的なネットワークがさらに強化されました。この戦略的発展により、標準化されたアプローチ、強固な協力関係、各国のリーダーへの支援が進みました。同年、180カ国から2,100万人がWCDに参加し、記録的な成功を収めました。

長年にわたるこの運動の成長は、その世界的な影響力が増大しているところに見ることができます。2014年、LDIWは「世界人口の5%を1日のクリーンアップ活動に参加させる」という大きな目標を掲げました。そしてこの目標は、それ以降の活動の指針となりました。2018年には初のWorld Cleanup Dayが開催され、24時間で1,800万人が参加するグリーンアクションの波が生まれ、環境活動における新たな基準となりました。さらに2019年のWCDでは2,100万人の参加者を集め、過去最高の成果を記録しました。

しかし、現代の廃棄物管理の課題が進化する中で、特に「ロックダウンによる世界のクリーンアップ活動の停滞」に対応するため、LDIWは2020年にデジタル・クリーンアップ・デー (DCD)

を開始しました。これは、デジタルごみによる環境負荷に取り組む画期的な試みです。また同年、コロナパンデミックの影響を受けて、初のオンライン会議を開催し、世界中の2,500人以上の代表者が戦略を共有し、サステナブルな活動の強化を図りました。

2022年にはコロナ後の回復が進み、1,500万人がクリーンアップ活動に参加。

2023年になると、LDIWは国連から正式に認知され、1,910万人がWCD2023に参加、198か国で218,704トンのごみを回収しました。

2024年、WCDが初めて国連の国際デーの記念日として登録され、毎年9月20日に開催されることが決定。歴史的なこの年には、2,320万人が参加し、191か国でクリーンアップ活動が行われました。

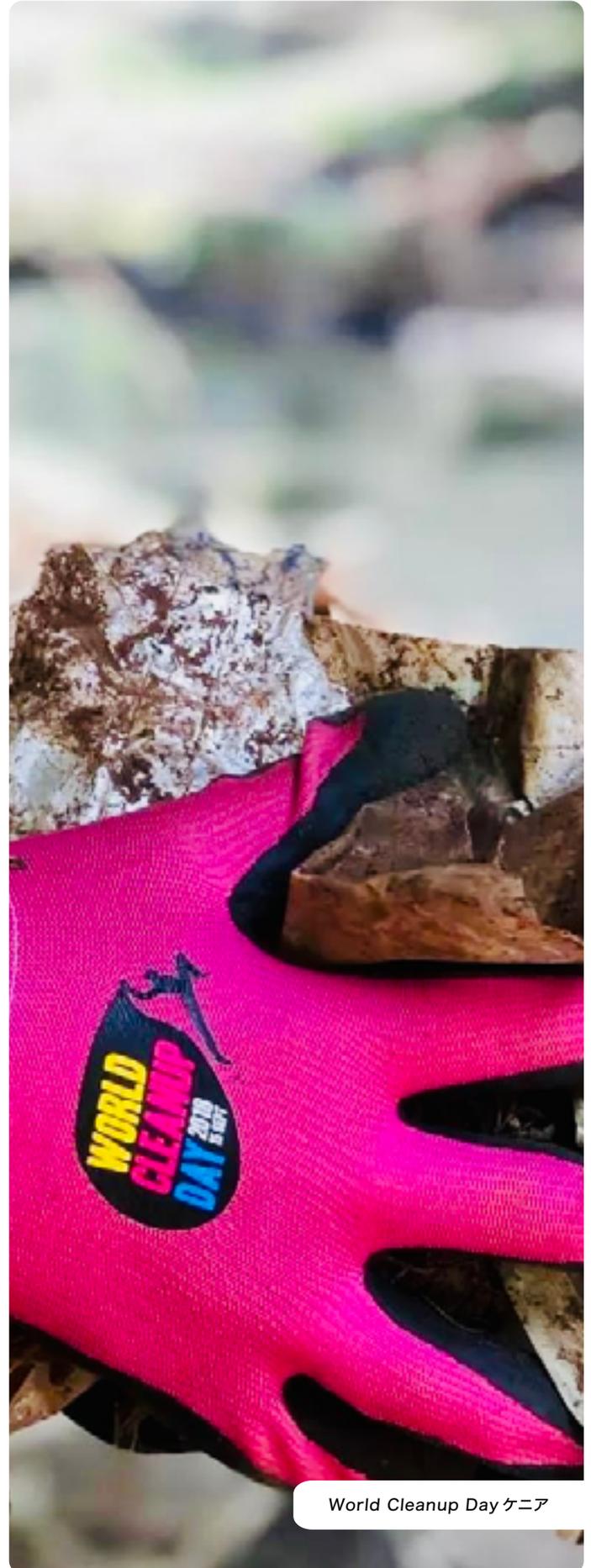
現在、LDIWのグローバルネットワークはさらに拡大しており、組織的な環境活動や革新的な廃棄物管理アプローチ、地域社会との積極的な関与を通して、その影響力を強めています。ほぼすべての国に活動の拠点を持つLDIWは、環境問題に立ち向かう集团的



2008年エストニア

な行動の力を示し続けています。教育、意識向上、実践的な取り組みを通じて、地域社会が自らの環境に責任を持ちつつ、世界的な進展に貢献できるよう支援しています。

私たちのムーブメントは、草の根の行動がいかに世界的な変化を生み出すことができるかを証明しています。人々が共通の目標のために団結すれば、驚くべき成果を達成できるのです。



World Cleanup Day ケニア

## インパクトモデル

Let's Do It World (LDIW) のビジョンは、単なるクリーンアップ活動にとどまらず、ごみのない世界を創ることにあります。私たちは164か国で活動しており、その広範なネットワークと多様性が、ひとつの環境アクションを通して大きな影響力を生み出しています。私たちの取り組みは、気候変動、生物多様性の減少、ごみ問題に対応するためには、深いシステム変革が必要であることを認識しています。World Cleanup Dayはそのための起爆剤となり、社会全体が意識を高め、果敢な行動を起こすきっかけを生み出しているのです。

私たちの「変革の理論」は、World Cleanup Dayがどのようにして継続的な変革をもたらしていくかを示しています。社会的変化が起こる臨界点（ティッピング・ポイント）は人口の5%の参加とされています。私たちはこの目標を掲げ、大きな成功を収めました。2018年以降、複数の国がこの重要な閾値を達成または超えており、十分な協力があればどこでも変革が可能であることを証明しています。

Let's Do It Worldの強みは、実践的な解決策を生み出しながら地域社会と地方自治体をつなぐ包括的なアプローチにあります。私たちの広大なネットワークは、単発のクリーンアップ活動を超えて年間を通じた持続的な影響を生むムーブメントへと進化してきました。全世界のチームは、環境教育の取り組みから循環型経済プロジェクトに至るまで、廃棄物管理の新しい解決策を開拓しています。

初期の成功事例は、クリーンアップ活動の勢いが国家を環境リーダーへと変革できることを示しました。

現在、私たちのグローバルなネットワークはこのレガシーを受け継ぎ、草の根レベルで実践的な解決策を推進するとともに、セクター間で信頼できるパートナーシップを構築しています。複数の国にまたがる統一された行動を通して、集団的なインパクトを強め、前向きな環境の変化を加速させています。

この大規模な参加、地域リーダーシップと実践的な活動を組み合わせた包括的アプローチは、持続可能なシステム変革の基盤を築いています。各国は「ごみのない世界」という共通のビジョンを持ちつつ、それぞれの地域に適した形で活動を展開しています。私たちは次世代のために、教育、エンパワーメント、共同行動を通じて、単に地球をきれいにするだけでなく、社会全体の廃棄物管理の在り方を変革しています。



World Cleanup Day マカオ

**「Let's Do It Worldの役割は、人々を呼び込み、学びを提供し、変革のカタリスト（意識の向上を促進する人）となることです。」**

効果(SDGs)

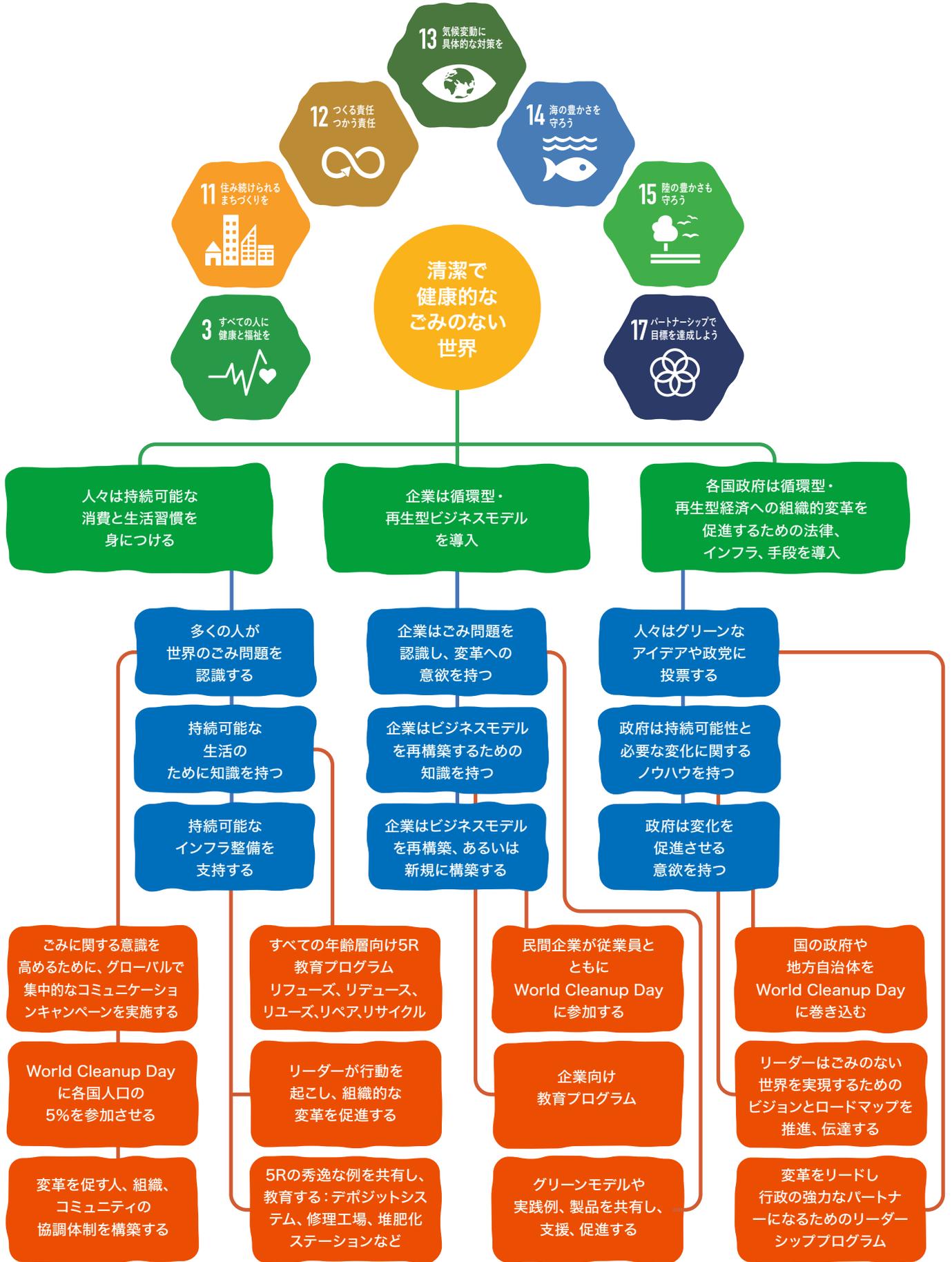
展望

結果

責務

活動

役割





## ネットワークとメンバーシップ

Let's Do It World は、164カ国で活動する地域リーダーやチームのグローバルネットワークを代表する団体です。多くのリーダーやチームは、15年以上にわたって活動に関わってきました！

このネットワークのリーダーたちが一堂に会し、それぞれ異なりながらも共通する経験を共有し、世界の環境改善を目指す姿を思い描いてみてください。この独自の革新は、組織内に協力と連携の文化を育むことでのみ実現可能であり、人類が築いた国境を超えて広がっていきます。私たちが共有する経験を通じて、さまざまな取り組みを促進し、力を与えることができます。これこそが、Let's Do It World (LDIW) のネットワークの最も特徴的な側面のひとつです。

LDIWは協働型ガバナンス・モデルで運営しており、意思決定や戦略的計画に民主的で積極的な参加を促進しています。World Cleanup DayもDigital Cleanup Dayも、Let's Do It World (LDIW) から生まれたものです。

World Cleanup Dayは、現在国連の国際デーに登録され、毎年9月20日に開催される世界的に認知されたイベントとなりましたが、これはLet's Do It World ネットワークの成果の証であり、国境を超えた課題に直面しながらも、団結の力がいかに大きな影響を生み出せるかを示しています。

Let's Do It World は、クリーンアップ活動を実施するだけでなく、未来の世代のために地球を守るグローバルコミュニティを築き、集団的意識を育むムーブメントを形作っています。この組織は、地域の環境リーダーを育成し、各国の主要な組織で影響力を持つ存在へと成長するよう、その大きな影響力を与えています。地域社会に根ざしたLDIWネットワークは、変革のカタリストとしてクリーンアップ活動を超えた広範な変革を生み出しています。

また、個人の成長を支援するプラットフォームへと進化し、リーダーやチームメンバーがシステム変革の推進者として活躍できる場を提供しています。彼らの経験は他の人々にインスピレーションを与え、草の根運動がもたらす変革の力、そして個人が環境活動の強力なリーダーへと成長できる可能性を示しています。

このネットワークは地域レベルでのリーダーシップの育成に重点を置いており、組織の基盤を強化するだけでなく、環境ガバナンスの全体的な枠組みを発展させる役割を担っています。地域レベルから国家レベルへとリーダーシップを移行することは、包括的な環境持続可能性のアプローチを確立する上で不可欠です。このネットワークの成功は、回収されたごみの量だけでなく、コミュニティの変化、育成されたリーダーたち、実践された持続可能な取り組み、といった成果にもはっきりと表れています。

**Let's Do It World がこの取り組みを続ける中で、その成功に貢献してきたすべての人々（リーダー、チーム、アンバサダー、ボランティア、パートナー）に対し、心からの感謝を表します。彼らは、前向きな変革と持続可能な発展の精神を体現する存在です。**



## Let's Do It World ネットワーク

**西アジア**

18の国と地域

アフガニスタン、アルメニア、アゼルバイジャン、バーレーン、  
 バングラデッシュ、インド、イラン、ヨルダン、カザフスタン、クウェート、  
 キルギスタン、パキスタン、パレスチナ自治区、カタール、サウジアラビア、  
 アラブ首長国連邦、ウズベキスタン、イエメン

**オセアニア**

4の国と地域

オーストラリア、  
 フィジー、  
 ミクロネシア連邦、  
 ニュージーランド

**ヨーロッパ**

42の国と地域

オーランド諸島、アルバニア、  
 オーストリア、ベルギー、  
 ボスニア・ヘルツェゴビナ、  
 ブルガリア、クロアチア、キプロス、  
 チェコ共和国、デンマーク、  
 エストニア、フェロー諸島、  
 フィンランド、フランス、  
 ジョージア、ドイツ、ギリシャ、  
 ハンガリー、アイスランド、  
 アイルランド、マン島、イスラエル、  
 イタリア、コソボ、ラトビア、  
 リトアニア、ルクセンブルク、  
 モルドバ、モンテネグロ、  
 ポーランド、ポルトガル、  
 ルーマニア、セルビア、スロバキア、  
 スロベニア、スペイン、  
 スウェーデン、スイス、オランダ、  
 トルコ、ウクライナ、英国

**アジア**

20の国と地域

ブータン、カンボジア、中国、香港、  
 インドネシア、日本、ラオス、マカオ、  
 マレーシア、モルディブ、モンゴル、  
 ミャンマー、ネパール、フィリピン、  
 シンガポール、韓国、スリランカ、  
 台湾、タイ、ベトナム

**アフリカ**

41の国と地域

アルジェリア、アンゴラ、ベナン、ブルキナファソ、  
 ブルンジ、カメルーン、チャド、コンゴ、コートジボワール、  
 コンゴ民主共和国、エジプト、エチオピア、ガボン、  
 ガンビア、ガーナ、ギニア、ケニア、レソト、リベリア、  
 マダガスカル、マラウイ、マリ、モーリシャス、モロッコ、  
 モザンビーク、ナミビア、ニジェール、ナイジェリア、  
 ルワンダ、サントメ・プリンシペ、セネガル、シエラレオネ、  
 ソマリア、南アフリカ、スーダン、タンザニア、トーゴ、  
 チュニジア、ウガンダ、ザンビア、ジンバブエ

**北アメリカ**

2の国と地域

カナダ、  
 アメリカ合衆国

**ラテンアメリカおよび  
カリブ海地域**

20の国と地域

アルゼンチン、バハマ、ボリビア、  
 ブラジル、コロンビア、コスタリカ、  
 キュラソー、ドミニカ共和国、  
 エクアドル、グアテマラ、ハイチ、  
 マルティニーク、メキシコ、パナマ、  
 ペルー、プエルトリコ、スリナム、  
 トリニダード・トバゴ、ウルグアイ、  
 ベネズエラ

## 受賞歴

Let's Do It World は、献身的なリーダーやチームとともに大きな進歩を遂げ、それぞれのコミュニティ内に建設的な変革をもたらしてきました。

彼らの取り組みは、各国内でも世界的規模でも高く評価されています。

私たちは、受賞した賞の数々をここに紹介し、各チームがその活動を通して与えた成し遂げた意義ある影響の数々を讃えます。

国連SDGアクションアワードは、国連SDGアクションキャンペーンの代表的なプログラムであり、人々を活動に参加させ、鼓舞し、連携することで活動を前向きに変化させた取り組みや個人を表彰するものです。2023年には、190カ国から5,000チームを超える参加申込みやノミネーションが寄せられました。そしてLet's Do It Worldは、旗艦キャンペーンであるWorld Cleanup Dayへの取り組みが評価され、栄誉あるモビライズ賞を受賞しました。

過去には、2021年の国連ハビタット名誉スクロール賞の受賞など、世界に広がるLet's Do It World グローバル ネットワークの功績も認められました。

World Cleanup Day は、2019年のエネルギーグローブ賞の最終候補にも選ばれています。

チームがその地域や地元で賞や表彰をいただけたことも大変嬉しく思っています。地球上のすべての生き物のために、よりクリーンな世界を目指してたゆまぬ活動を続けているネットワークのリーダーやボランティアにとって、これは大きな意味を持ちます。





# World Cleanup Dayの 国連カレンダー登録認定

Let's Do It World が主催する  
World Cleanup Dayが  
国連カレンダーに登録されたことは、  
極めて重要な成果であり、  
広く影響をもたらす出来事です。

この登録は、環境問題への認識を高め、廃棄物管理や持続可能性を、気候変動や生物多様性の喪失といった重要課題と並ぶグローバルな視点で位置づけるものです。私たちの取り組みが正式に認められることで、世界中の人々やコミュニティ、組織が行動を起こすきっかけとなり、共同行動を促進する力となります。

このマイルストーンは、各国政府が環境政策を優先し、World Cleanup Dayの使命と一致する取り組みを促進させます。国連の支援を受けることで、廃棄物管理、リサイクル、汚染対策に焦点を当てた実効性のある法令が制定され、持続可能な資源利用が促進されることにつながります。また、この登録による可視性の向上は、各国政府によるクリーンアップ活動の支援に向けた投資の増加や、差し迫った環境問題への意識向上にもつながるでしょう。

さらに、この登録は、政府、NGO、民間企業の協力を促進し、廃棄物汚染への革新的な解決策を提供する共同プロジェクトを推進する役割も果たします。World Cleanup Dayは地域社会に力を与え、草の根レベルでの参加を促し、市民が自らの環境を守るために行動を起こすきっかけとなります。

World Cleanup Dayの目に見える形になったそのインパクトは、単なるイベントの成功にとどまらず、環境保護への関心を深くするものです。

私たちの共同の取り組みから得た教訓は、今後の意識の向上や革新的な戦略の開発に役立ちます。私たちは、地域社会と地球のために持続可能な実践を推進し、環境保護の重要な役割を強化しながら、グローバルな課題に取り組めます。

Let's Do It Worldのネットワークに関わるすべての方々に、特にリーダーや本部の皆様へ、心からの感謝を申し上げます。特に過去7年間、皆様の貢献は不可欠なものでした。資金面での課題があったにもかかわらず、私たちは一貫して集団としての努力を示し続け、粘り強さこそが真の変革を生み出す鍵であることを証明しました。私たちの歩みは、この活動が極めて重要であり、今後も成長し、強化し続ける必要があることを示しています。



World Cleanup Day ウズベキスタン



World Cleanup Day タンザニア

私たちはまた、World Cleanup Dayを国連カレンダーに登録するためのパートナーシップを築いたエストニア政府、そしてこの重要な取り組みを継続的に支援してくれているUN-Habitat（国連人間居住計画）に対しても、深い感謝の意を表します。

Let's Do It Worldは、UN-Habitatのナレッジ・パートナーとして、World Cleanup Dayへの全世界的参画を促しています。164か国のネットワークを結集して強力な集団効果を生み出すことで、将来にわたり長く続けられる環境活動を推進しています。World Cleanup Dayは、コール&メディアセンターの導入により、世界の進捗状況を効果的にトラッキングできると同時に、各国の環境イノベーションや持続可能性への取り組みを発信できるようになりました。

World Cleanup Dayは、世界的なサステナブル活動にスポットライトを当て、さまざまな開催国の環境管理の成果を紹介するダイナミックな放送イベントの機会も提供します。この活気に満ちたイベントは、情報を発信してインパクトを与え、コミュニティ主導の活動が生み出す集合的インパクトを目に見える形で示しながら、よりクリーンで健全な地球を目指す運動に参加するよう促します。

World Cleanup Dayに参加することは、各国政府が地域のごみ問題に取り組むだけでなく、国際レベルの持続可能な発展の取り組みに加わり、その努力を世界に発信することを意味します。

# World Cleanup Day 2024

ありがとう  
ございました!



参加者

2,300万人

191



の  
国と地域

国連加盟国の



87%

16万5千  
トン

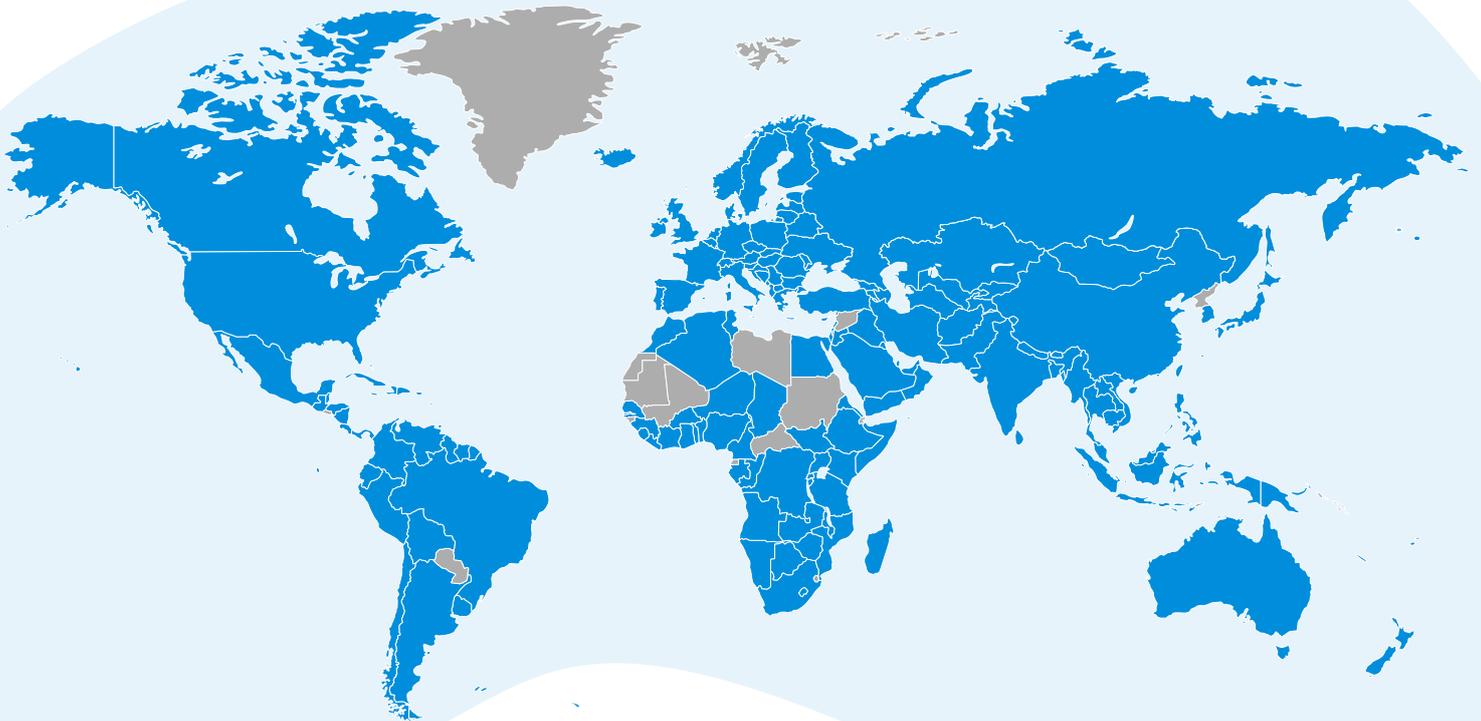


のごみを回収

WORLD  
CLEANUP  
DAY 2024  
20 SEPT



● WCD2024 参加国



## 結果概要

今年のWorld Cleanup Day 2024は、大きな成功を収めました。数々の記録を更新し、その成果を支えた重要なトレンドが注目されました。前年の2023年、Let's Do It Worldは、World Cleanup Dayでの動員活動の功績を受けて国連のSDGs賞を受賞しました。また、このイベントが公式な国連カレンダーの「国際デーおよび国際週間」に登録され、9月20日が正式な開催日として制定されたことは光栄なことです。

World Cleanup Dayは、191の国と地域から2,300万人以上が参加し、史上最高の動員数と参加率を記録しました。今年は特に各国の参加レベルが大幅に向上し、40か国が過去の記録を更新しました。メキシコ、日本、キルギス、ドイツ、ブラジルな

どの国々では、過去最高の参加者数をほぼ倍増させる成果を達成しました。

特に注目すべき成功のひとつが、ウクライナチームの記録的な参加です。Let's Do It ウクライナの主導のもと、今年はこれまでのどの年よりも多くのウクライナ国民が参加しました。戦時下にもかかわらず、40万人以上が国内各地で行動を起こし、世界に向けて「私たちにできるのだから、誰にでもできる!」という力強いメッセージを発信しました。また、エストニアでも新記録が達成され、6万3,000人が参加。これは、2008年に開催された世界初のLet's Do Itクリーンアップ・デーの参加者数を上回る成果となりました。

しかし、国別の動員率（国民の何%が参加したか）は、World Cleanup Dayの成功を測る重要な指標です。私たちは世界人口の5%の参加を目指しているため、各国の個別の動員率を理解することは非常に重要です。今年、この指標でトップに立ったのはキルギスで、人口の12%が参加しました。続いて、カンボジア7.2%、クック諸島6.6%、毎年5%の壁を超え続けているラトビアは7.7%という高い動員率を達成しました。

データを詳しく分析すると、持続可能な社会変革への呼びかけが、一般市民だけでなく政策立案者にも広く受け入れられていることがわかります。

私たちは、よりクリーンかつ健全で、ごみのない地球を目指すアドボケーターとして、大きな影響を与えつつあります。では、World Cleanup Day 2024を成功に導いた注目すべきトレンドを振り返りながら、その成果を称えてみましょう!



World Cleanup Day バハマ

## 若い力

世界中の若者の参加意欲は非常に高く、多くの学校や若者たちによるWorld Cleanup Dayへの積極的な参加が増加していることを実感しています。World Cleanup Day 2024での最も顕著なトレンドは、モザンビークから生まれました。同国では、教育省とのパートナーシップにより、数百の学校がクリーンアップ活動に参加しました。同様に、エストニアでは6万3,000人以上が参加し、国内の学校の91%がWCDに参加するという驚異的な成果を達成しました。



キューバ

## 行政の取り組み



カンボジア

もう一つの重要なトレンドとして、World Cleanup Dayへの各国政府の関与が拡大していることが挙げられます。地方の首長から国連の代表、各国の大統領に至るまで、政府関係者が私たちの活動により深く関与し、私たちが発信するメッセージへの理解を深めていることは明らかです。

この各国政府の関与の拡大は、地域レベルでの進展にとどまらず、政策決定の場においても影響力を持ち始めています。政策立案者の関与が不可欠であることはますます明らかになっており、多くの国のネットワークリーダーが、廃棄物管理の危機が深刻化する中で、法的拘束力のある政策の導入を政府に求めています。

## 民間セクターの認知度の向上

若者や政府の意識向上に加えて、今年は企業の可視性と関与も顕著に増加しました。特にLinkedInを中心としたソーシャルメディアでは、多くの企業や団体が主催したクリーンアップ活動を称える投稿があふれていました。

この企業セクターの関与は、より広くムーブメントを起こすための重要な要素となっており、社会全体が廃棄物管理の世界的な危機に取り組む必要性を認め、コミットメントを強めていることを示しています。



ケニア

## Let's Do It Worldファミリーに 新しい国々を歓迎



オーランド

私たちのムーブメントは、規模、エネルギー、影響力の面で拡大し続けています。World Cleanup Day 2024 には、エリトリア、クック諸島、タジキスタン、オーランド諸島の4つの国と地域が初めて参加し、新たな節目を迎えました。

これらの国と地域は、本土の河川から海へと流れ込み、最終的

に自国の海岸に漂着する大量のごみ対策に取り組んでいます。

彼らの参加は、この取り組みのグローバルな広がりとその重要性が新たな段階へと進んでいることを示しています。

世界的な影響力は着実に拡大しています。2018年にWorld Cleanup Dayを開始して以来、私たちは大きな進展を遂げてきました。

2018年から2024年までの7回のWorld Cleanup Dayを通じて、国連加盟国の95%を含む世界211の国と地域で、ボランティアのネットワークが合計70万8,289トンの不法に投棄されたごみを回収しました。

これまでに、世界で延べ1億1,400万人以上が参加し、地球人口の1.43%に達する大規模な動員を実現しました。

## ごみ - 地球の重荷を軽くする

World Cleanup Day 2024で報告されたごみの総回収量は、世界全体で164,585トンに達しました。この数字の多くは、各国のリーダーが提出した報告書から直接得られたものであることが重要なポイントです。

また、World Cleanup Dayの開催場所を追跡した結果、全世界で正式に115,926件のイベントが登録されました。しかし、正式な登録がなくても、多くの価値あるクリーンアップ活動が実施されたことも忘れてはなりません！



ギニア

## World Cleanup Day 2024 のインパクト

今年のLet's Do It Worldリーダーアンケートには、98か国からの回答が寄せられ、各国のWorld Cleanup Dayの成果について、参加者から高い評価が示されました。

2024年の調査では、リーダーたちの満足度は引き続き高く、2025年のWorld Cleanup Dayの全国的なクリーンアップ活動を計画するためのモチベーションも依然として高い水準を維持していて、10点満点中8.92となり、昨年の8.93とほぼ同じ水準でした。過去の調査結果からも、モチベーションレベルは一貫して高いことが確認されています。また、World Cleanup Dayがごみ汚染への意識向上に与えた影響については、評価スコア7.77を記録し、昨年と同じ結果となりました。

# 96%

96%のリーダーたちは  
2025年9月20日のWorld Cleanup Dayに  
高い意欲を示している

World Cleanup Day 2024の準備期間中のLet's Do It World本部からの支援に対する評価は、前年よりもやや向上し、平均スコア 7.74 を記録しました。また、地元の資金調達に関するアドバイスや戦略に対する期待が、支援ニーズの最優先項目となり、前年の3位から順位を上げました。これは、World Cleanup Dayが社会に与える影響やシステム変革への関心が高まっていることを反映しています。

総回収量164,585トンのうち、65%が適切に分別され、各地域のリサイクルに回されました。残りの35%は、長期間自然の中に放置されていたものや、分別が困難な廃棄物であったため、最終的に地元の埋立地に廃棄されました。

リーダーたちは、World Cleanup Dayへの参加者数、メディアの報道、個々のクリーンアップ活動、企業の関与、政府の参加が継続的に増加していることを報告しました。

調査によると、90%の国が大規模なクリーンアップ活動を実施し、63%の国では、地元自治体から直接的な支援を受け、55%の国では、その他の公共部門の代表者が関与したという結果が示されました。

# 65%

回収された16万4500トンのうち  
65%が分別された

環境保護活動のあらゆる分野からの参加は不可欠です。なぜなら、それは集団的理解を育み、不適切に捨てられたごみに対する解決策を特定し、実施する必要性に対する認識を高めるからです。アンケート結果の全体的な傾向として、Let's Do It Worldのリーダーたちは、World Cleanup Dayが社会の中でますます定着していると感じており、多くの地域で正式なイベントとして認識されていることが明らかになりました。

World Cleanup Day終了後も、リーダーたちはフォローアッププロジェクトを継続的に実施しており、学校での教育プログラム（71%の国）、コミュニティにおけるイニシアチブ（56%）、企業の関与（52%）、ごみの分別や堆肥化の取り組み（41%）、そしてその他の活動（17%）が挙げられます。

そして、素晴らしいことに、96%のLet's Do It Worldのリーダーたちは、次回の2025年9月20日のWorld Cleanup Dayの開催に強い意欲を示しています。

アンケート結果は、持続的なモチベーションがシステム変革を推進し、コミュニティレベルでのインパクトモデルに焦点を当てることが効果的な解決策の実現に不可欠であることを表しています。また、社会におけるごみ問題の影響に対する認識を高める必要があること、そしてこの課題に取り組むためには、強固な分野の横のつながりが求められることも明らかになりました。Let's Do It Worldは、こうした協力を通じて、持続可能な変革を促進することを目指しています。

# 71%

回答者の71%は、  
学校向けの教育プログラムなどの活動に  
取り組んでいる

## 7年に亘る7回のクリーンアップ キャンペーンのインパクト

### World Cleanup Days 2018-2024



参加者数  
**1億1,400万人**



**211**  
の国と地域



国連加盟国の  
**95%**  
を含む



世界人口比  
**1.39%**



**708,289**  
トン  
のごみを収集



参加者



国と地域



国連加盟国比率

<b>2018</b>	1,800万人	157	76%
<b>2019</b>	2,120万人	180	83%
<b>2020</b>	890万人	166	77%
<b>2021</b>	860万人	191	85%
<b>2022</b>	1,480万人	190	86%
<b>2023</b>	1,910万人	198	90%
<b>2024</b>	2,300万人	191	87%

## 5%達成国 (2018-2024)



2018年以降、8か国が「持続可能な変化を生み出すための臨界点」とされる人口の5%参加という目標を達成しました。クック諸島は今年初めてこの基準を超え、6.6%を記録しました。

ラトビアは、過去7回のWorld Cleanup Dayのうち5回で5%を超え、特に直近4回は連続で達成しており、依然としてトップに立っています。

また、特筆すべきはキルギスで、今年は史上最多となる12.4%の動員率を記録しました。

# WORLD CLEANUP DAY

## 感動ストーリー

### ギニア



2024年9月20日に開催された  
WORLD CLEANUP DAYは、  
ごみ問題に取り組む重要なグローバル・  
アクションであり、Let's Do It ギニアも  
目覚ましい貢献を果たしました。

ギニアでの主なクリーンアップイベントは、9月22日にラトマのタコンコビーチで開催されました。このイベントは、カンントリーリーダーであるムーサ・モイズ・シラが、JCIコナクリーダーズ、地元のNGO、そしてトラオレ市長と市政府の支援を受けて実施されました。

20の地元のユースグループを動員し、ギニアの若者のエネルギーと情熱を活かしたこのイベントは、成功の原動力となりました。参加者はごみを回収するだけでなく、地元の企業と連携して、回収した資源がリサイクルまたは再利用されるよう取り組みました。

このクリーンアップは、使い捨てプラスチックの製造、輸入、販売、使用を禁止する国内法の発表と同時に行われ、ギニアはプラスチック汚染との戦いの最前線に躍り出ました。このイニシアチブはまた、年末まで2週間ごとにクリーンアップイベントを開催すること、そして環境保護に特化したコミュニティ団体の設立を後押ししました。

Let's Do It ギニアの活動は、ギニア国営放送を通じて広く報道され、国内でのさらなる参加を促しました。このムーブメントのアクションへの呼びかけは、他の都市の首長たち、そしてギニア共和国のママティ・ドゥンブヤ大統領にまで届き、全国的な具体的な行動の必要性を訴えました。

ムーサ・モイズ・シラは、かつてプラスチックごみで覆われていたタコンコビーチが見事に生まれ変わった様子を振り返りました。クリーンアップとして始まったものが、コミュニティのエンゲージメントを祝う祭典へと発展したのです。子供たちの笑い声と、環境保護に関する熱心な議論が響き渡りました。この共同の取り組みは、ビーチをよみがえらせただけでなく、地域住民の間にサステナビリティへの意識を根付かせました。

この動員に応え、コミュニティはタコンコの環境保全に焦点を当てた地域団体を設立し、意識啓発のための学校教育プログラムを展開し、砂丘の再植林プロジェクトを開始しました。タコンコビーチは今や、持続可能な活動のための活気ある拠点となり、コミュニティが共通の目標に向かって団結することで何が達成できるのかを示す模範となっています。

WORLD CLEANUP DAYは、連携したアクションが重要かつ持続的な変化をもたらすことを示し、より深い環境意識を育み、地域社会と地球全体のより健全な未来を確かなものとすることを示しています。



## エストニア

**2024年に開催されたWORLD CLEANUP DAYは、エストニアで7回目となり、これまでで最も成功した回となりました。エストニアを起源とするWORLD CLEANUP DAYは、2008年に行われた最初の全国的な「Let's do it!」エストニアのクリーンアップから発展しました。**

この取り組みは、環境管理への強いコミットメントを反映し、現在もエストニアに深く根付いています。

今年は、あらゆる年齢、国籍、世界観を持つ人々がエストニア各地のさまざまな場所の清掃のために一堂に会し、大きなグループ、教室、チーム、そして家族として参加しました。参加者の90%以上が幼稚園や普通教育学校の生徒でした。

今年は、合計62,991人の参加者が登録し、416の教育機関と49の企業が参加、516のクリーンアップイベントが行われました。さらに、住民のための48の公共クリーンアップと、ダイバーによる2つの水中クリーンアップも実施されました。

毎年、エストニアのWORLD CLEANUP DAYは、小さなごみやプラスチックごみ、不燃ごみ、タバコの吸い殻、墓地のろうそく、造花、そしてバルト海と内陸水域の汚染など、さまざまなテーマに大きな注目を集めています。2024年は、使い捨て電子タバコがもたらす環境被害に焦点が当てられました。主な懸念は、電子タバコが一般ごみや自然の中に捨てられることと、これらの製品の高度に汚染し資源を大量に消費する生産・廃棄物管理プロセスでした。

9月には、電子タバコに関連する問題に対処するため、様々なメディアチャネルやソーシャルメディアプラットフォームで包括的な啓発キャンペーンが開始されました。このキャンペーンでは、電子タバコの適切な処分方法が紹介され、これらの製品をリサイクルするためのネットワークが確立されました。クリーンアップ活動中に、合計1,192本の電子タバコが

自然から回収されました。

この問題についての啓発活動の結果、電子タバコに関する法律を改正し、変化する市場状況に法律を対応させるため、気候省および関連機関との連携のもとで議論が開始されました。

WORLD CLEANUP DAY 2024での取り組みは、エストニア人が差し迫った環境問題に取り組む決意と、共通の目的のために集まるコミュニティの集成的な力を示しています。2008年に始まったこのグローバルな活動を引き続き主導することで、エストニアは環境責任の価値観を体現し、よりクリーンな地球のために行動を起こすよう他国にインスピレーションを与えています。





ブルガリアでは、2024年のWORLD CLEANUP DAYが、bTVメディアグループが主導する重要かつ影響力のある取り組みにより特徴づけられました。

この民間テレビネットワークは12年連続で「Let's Clean Bulgaria Together」（共にブルガリアをきれいにしよう）キャンペーンの先頭に立ち、環境活動を推進するメディアの可能性を示しました。

今年のイベントは目覚ましい参加を記録し、28万2,000人以上の個人が国中の6,800以上の環境汚染されたエリアを清掃するために集結しました。このクリーンアップ活動により、なんと4,300トンのごみが回収され、ブルガリア国民の環境管理への深いコミットメントが反映されました。

若い世代の熱意は特に顕著で、約700の教育機関がキャンペーンに参加し、昨年と比較して100の増加という注目すべき結果となりました。学生、教師、そして家族が力を合わせてコミュニティに具体的な変化をもたらし、教育と意識がいかに効果的に集団行動を動員できるかを示しました。

この取り組みを特別なものに行っているのは、bTVが単にごみ問題の報道を超えて、よりきれいな未来の構築に積極的に関わっていることです。「共にブルガリアをきれいにしよう」キャンペーンは、環境責任とコミュニティの結束を促進することで肯定的な影響を生み出すことを目指すbTVのソーシャルブランド「The Good Example」（良い例）の一部です。今年のテーマ「ゲームチェンジ!」は、水域の汚染対策に焦点を当て、北極汚染と海洋ごみに焦点を当てたグローバルなWORLD CLEANUP DAYの方向性に沿ったものでした。河川、湖、沿岸地域の汚染に焦点を当てることで、bTVは重

要な水資源に対する人間の活動の深刻な結果に注目を集めています。

このクリーンアップ活動は、汚染された水域によって悪化しているブルガリアでの鉄砲水の発生増加の観点から特に重要です。これらの地域を清掃することは、単にごみを収集するだけでなく、将来の環境災害を防ぎ、コミュニティの安全と健康を守るために不可欠なのです。

この取り組みの一環として、bTVはメディアのリーダーシップが他のセクターに有意義な行動を促すことができることを示しました。地域コミュニティ、教育機関、メディア組織間のコラボレーションは、変化をもたらす集団的な可能性を強調しています。今年のWORLD CLEANUP DAYの成功は、草の根的な関与がいかに重要な環境の進歩をもたらすかを証明しています。

結論として、bTVメディアグループが主導する取り組みは、ごみ問題との闘いにおける協力的な努力の重要性を強調しています。彼らの影響力のあるアプローチは、メディアがいかにコミュニティを団結させ、よりクリーンで健全な地球を育むことができるかのロールモデルとなっています。



## ブルガリア

## ガーナ

プラスチックごみは、ガーナにおいて人々の健康、環境、そして海洋生物に悪影響を与える重要な環境課題となっています。ガーナでは年間約84万トンのプラスチックごみが発生していると推定されています。

この量のうち、わずか9.5%しかリサイクルされておらず、残りは無分別に廃棄され、プラスチックが雨水排水溝、河川、小川を詰まらせ、最終的に海洋に流れ込んでいます。

この問題に対処するため、ガーナはLet's Do It ガーナと提携して、2018年からWORLD CLEANUP DAYに参加しています。この世界的に認知されている日は、プラスチックごみとその環境への影響について意識を高め、何千人ものボランティアを全国のコミュニティやビーチクリーンアップに動員し、プラスチックごみを回収しています。

2024年、ガーナは9月20日と21日に、グレーターアクラ、西部、中央部、東部、アシャンティ、そしてボノ・イースト地域の6つの地域でWORLD CLEANUP DAYを祝いました。

8,561人以上のボランティアが参加し、74トンのごみを回収しました。クリーンアップ活動は学校、コミュニティ、そしてビーチなどで行われました。

参加を促すため、スポーツがイベントに組み込まれ、個人、企業組織、そしてスポーツ愛好家が、ビーチを清掃しながら、新しく清掃された海岸でスポーツフェスティバルを楽しむことができました。Let's Do It ガーナチームは、ガーナラグビーリーグ連盟とビーチサッカーガーナとの協力により、この取り組みを成功させました。

ガーナでのWORLD CLEANUP DAYを主催するLet's Do It ガーナは、クリーンアップのためのボランティアを動員するだけでなく、学校やコミュニティでプラスチックごみについての意識を高め、前向きな行動変化を促進しています。チームはブランド監査を実施し、使い捨てプラスチックに代わる再利用可能な代替品を提唱しています。

プラスチックごみを削減するLet's Do It ガーナの取り組みは、同組織が2023年ガーナ環境・衛生賞から「インパクトのあるクリーンアップ動員組織賞」を受賞したことで認められました。Let's Do It ガーナは、2024年のWORLD CLEANUP DAYを成功させるためのパートナーとボランティアの素晴らしい支援と参加に心から感謝しています。



## ラトビア

ラトビアは北ヨーロッパに位置する人口200万人の国で、バルト海に面しています。2024年のWORLD CLEANUP DAYでは、バルト海の保全を重視し、「幸せの木」植林活動、クリーンアップ活動、そしてエコロジーと持続可能性に関する討論会を開催しました。地元住民に加え、企業、外国人とラトビアの外交官、そして国内外の在外ラトビア人も参加しました。

バルト海は世界で最も汚染された海の一つであり、その原因の一部は第二次世界大戦からの長期的な汚染の影響によるものです。写真はWORLD CLEANUP DAYのクリーンアップイベントの一部を示しており、最後に海の「健康」を祈る儀式で締めくくられました。また、内陸水域の水質や水をきれいに保つために社会で必要な行動変化についてのメディア討論も行われました。

最初のWORLD CLEANUP DAY以来、ラトビアでは独自の「幸せの木」キャンペーンを展開し、人々に種まきしたり木を植えたりするよう呼びかけてきました。このイニシアチブを通じて、ラトビアはごみを取り除かれた後の土壌にどのような変化が起こるかを示すことを目指しています。このキャンペーンは範囲を拡大し、2024年にはクラスラヴァ市に7番目の「幸せの木パーク」をオープンしました。自治体と住民は公園の創設と管理に対する責任を共有しています。

ラトビアの学校のネットワークもこのキャンペーンに参加しており、生徒たちは学校で自分たちの幸せの木を植えたり、植物やエコシステムを育てたりすることに焦点を当てたプロジェクトを行っています。

今年のWORLD CLEANUP DAYはワールド・ウェルネス・ウィークと提携し、ラトビアチームはラトビア独自のウェルネスである「ラトビアの歌と踊りの祭典運動」と協力協定を締結しました。合唱団、ダンスグループ、民俗グループ、アマチュア劇団、オーケストラがWORLD CLEANUP DAYキャンペーンに参加するよう招待され、歌唱を特徴とする非公式なコミュニティイベントを創出しました。これらのイベントは団結の精神、自然への感謝、そして健康的な生活の促進を目的としています。

ラトビアでのWORLD CLEANUP DAYは、「Lielā Talka」（英語で「The Big Cleanup」、日本語では「大清掃」の意）と呼ばれる国内最大のボランティア運動によって組織されています。2008年以来、この運動は世界中のラトビア在外コミュニティを含め、クリーンアップ活動のために50万人以上の参加者を集めています。2024年の活動では、参加者総数が14万人に達し、国全体で30万枚の無料ゴミ袋が配布され、1,500カ所でクリーンアップ活動が実施されました。





ルーマニアは2010年からWORLD CLEANUP DAYに参加しており、よりクリーンで責任ある持続可能な地球に貢献することを誇りに思っています。

Let's Do It ルーマニアは、変化を起こす力があり、かつて環境問題が軽視されていた国でこのようなムーブメントを発展させることができるという強い信念を持ってこの取り組みを始めました。

2010年以来、260万人以上のボランティアがルーマニアでの活動に参加し、Let's Do It ルーマニアを国内最大の社会的ムーブメントに変えました。2024年には、ルーマニア全国41県から25万人以上のボランティアが集まり、23万袋のごみを収集し、合計2,400トンになりました。2024年のルーマニアにおける重要な成果は、議会と大統領によってナショナルクリーンアップデー法（法律第266/2024号）が採択されたことでした。

この瞬間は、よりクリーンで健全な環境を目指す国にとって重要な一歩となりました。この法律の目的には以下が含まれています：

- ・ ナショナルクリーンアップに積極的に参加するようコミュニティを動員すること
- ・ 学校での環境教育を促進すること
- ・ ごみの分別収集を奨励し、不法投棄を制限することで環境汚染と闘うこと
- ・ 当局とNGO間のパートナーシップを育成すること



ルーマニアのナショナルクリーンアップデーは毎年9月の第3土曜日に祝われます！これはコミュニティ、当局、NGOが力を合わせて、よりクリーンな環境に近づくための活動を組織する絶好の機会となります。チームはまた、ルーマニア国内のごみがある地域をマークするためのLet's Do It ルーマニアアプリを開発し、当局とボランティアが行動を起こせるようにしました。

一つひとつの小さな行動が大切であり、共に力を合わせることで私たちのコミュニティをよりクリーンで緑豊かな場所に変えることができます！来年、ルーマニアは初めてのクリーンアップ活動から15周年を迎え、クリーンで持続可能なルーマニアの実現に向けて共に行動することの重要性を推進する大規模なキャンペーンを計画しています。より持続可能な未来に向けて、一緒に一歩踏み出しましょう。Let's do it!

ルーマニア

## ミャンマー

今年、Let's Do It ミャンマーは、国連ハビタット・ミャンマーが主催する2024年6月24日から29日までのミャンマー気候行動週間(MCAW)の間に、WORLD CLEANUP DAY 2024キャンペーンを開始しました。

ミャンマーでのWORLD CLEANUP DAY 2024は、過去6年間のWCDの活動を基盤とした注目すべき集团的取り組みを示しました。様々な課題にもかかわらず、Let's Do It ミャンマーは1,000人以上のボランティアと17のパートナー組織と共にWORLD CLEANUP DAYを祝い、ミャンマーのごみ問題に取り組みました。この影響力のあるイニシアチブは、10,000キログラム以上のごみを回収することに成功し、環境問題と気候変動についての意識を高めました。これは、コミュニティが国連ハビタット・ミャンマーとともに、よりクリーンな環境への献身を示すものでした。

2024年のWORLD CLEANUP DAYイベントはミャンマーでのWORLD CLEANUP DAYの7周年を記念し、GLOBAL CCC組織との協力により、この節目を祝う歌を発表しました。2024年、Let's Do It ミャンマーは国連ハビタット・ミャンマー、YOMAストラテジック・ホールディングス、JCIミャンマー、CMA CGMミャンマー、そしてCEVAロジスティクスとのパートナーシップの成功に取り組みました。これらの団体の積極的な参加と協力がイベントの成功に不可欠でした。

国内の様々な課題の中での実地のクリーンアップ活動やデジタルキャンペーンに加えて、Let's Do It ミャンマーは国境を越えた環境イベントに参加することで活動範囲を拡大しました。2024年のアースデイでは、Let's Do It ミャンマーチームがLet's Do It マレーシアとマレーシア人道支援財団(MHF)と協力し、ペナンタウンホールで初の「持続可能なアップサイ

クルファッションショー」を開催しました。また、国のリーダーであるジン氏とLet's Do It ミャンマーチームは、ペナンでのアースデイイベントの4日目に、手作りのソーダタブ(ドリンクのプルタブ) プレスレットのリサイクルワークショップも主催し、その後リサイクル材料と製品を展示しました。これらの活動は創造性を通じて持続可能な生活を促進し、実践的で魅力的な方法で5Rs(リデュース、リユース、リサイクル、リフューズ、リペア)に関する意識を高めました。

全体として、このイニシアチブは環境の持続可能性を育む上での集団行動の重要性を強調しました。また、環境課題に対する長期的な解決策を開発する上でのパートナーシップ、創造性、そして教育の役割も強調しました。大規模なクリーンアップと革新的なワークショップや芸術的表現を組み合わせることで、Let's Do It ミャンマーチームは即時のごみ問題に対処するだけでなく、より広範な持続可能性へのコミットメントを促しました。このイベントは有意義な環境変化を推進する上でのグローバルな協力の力を強調し、地域社会と国際的な参加者の両方に持続的な影響を残しました。





## 団結と希望を祝う

**パナマは今年、7回目の  
WORLD CLEANUP DAYを素晴らしい  
成功を収めて祝いました。**

5つの州の80以上のコミュニティから1万5,000人以上のボランティアが集まり、街路、公園、河川、そしてビーチの清掃に協力し、推定150トンのごみを除去しました。カレン・ゴンザレスという模範的な地域コーディネーターが率いるベラグアス州が主導し、サンティアゴ市と周辺地区で7,000人の参加者が集結し、記憶に残る最も感動的な環境活動の一つとなりました。

しかし、2024年の最大のハイライトはクリーンアップだけではなく、WORLD CLEANUP DAYに先立ってサンティアゴで開催されたエコロジカルパレードでした。2年連続で、サンティアゴの街は色彩と創造性、そして強い目的意識で活気づきました。家族、学生、そして学校や地元組織の代表団が「より清潔なパナマのために共に」や「私たちの地球、私たちの責任」といったメッセージを掲げた旗を誇らしげに掲げて行進しました。

木や動物に扮した子供たちが注目を集め、地元の学生たちが作ったりサイクル素材で作られた見事なエコアート作品が観客から歓声を浴びました。このパレードは単なるお祝いではなく、コミュニティが環境を守るために団結するとき何が可能かを思い出させるものでした。

ある参加者が次のように最も的確に表現しています：「子どもからおじいちゃんおばあちゃんまで、こんなにたくさんの人々が同じ目標に向かって活動しているのを見ると、本当に私たちはより良い未来を作り出せると信じられるようになります」

## Let's Do It パナマについて

Let's Do It パナマはLet's Do It Worldの誇り高いメンバーであり、2017年以来、グローバルな活動をパナマで代表しています。過去7年間で、フランシスコ・ビザロ（創設者であり現在の国内リーダー）が率いる組織は15万人以上の人々を動員し、WORLD CLEANUP DAYのイニシアチブを通じて推定750トンのごみを回収しました。この揺るぎないコミットメントは、よりクリーンで健全で持続可能なコミュニティを作るというパナマの決意を反映しています。



**パナマ**

## 中国

中国では、WORLD CLEANUP DAY 2024の一環として、「#MakeRoomForLife (生命のための場所を作る)」というテーマのもと、プラスチック汚染の環境への影響に焦点を当てた心を動かす活動を開始しました。意識を高めるために、私たちは伝統的な中国芸術からインスピレーションを得た、美しくデザインされた一連のポスターを制作しました。

これらのポスターは、山、川、花、鳥、魚、昆虫、人々などの要素を強調しながら、四季のテーマ、岩絵、プラスチックコラージュを取り入れていました。上海の10の主要な地下鉄駅に展示されたこれらの芸術作品は、一般市民の注目を集め、プラスチック汚染問題への取り組みの緊急性を強く思い起こさせるものとなりました。

視覚芸術の取り組みに加えて、私たちは人気の中国SNSプラットフォーム「小紅書 (シャオホンシュ)」で「左手にゴミ、右手に詩」と題したクリエイティブなキャンペーンを開始しました。このイニシアチブは詩のプロガーたちに環境意識というテーマについて考察するよう促しました。

反響は目覚ましく、40人以上の詩人から96の作品が寄せられました。私たちは46の詩を選び、上海のWORLD CLEANUP DAYイベントで展示しました。これらの作品の一部はカレンダーや冷蔵庫用マグネットに形を変え、パートナーや一般市民の両方から熱心な反響を得ました。

2024年9月21日、北京のエストニア大使館はビーチクリーンアップイベントを開催し、WORLD CLEANUP DAYへの私たちの取り組みを示しました。他のEU諸国の大使も招待し、30人以上が参加して河岸から150キログラム以上のごみを協力して取り除きました。大使館はこのイベントを毎年 の伝統とし、WORLD CLEANUP DAYへの取り組みを深め、環境協力を強化する計画です。

これらの取り組みを通じて、私たちは環境問題に取り組む上でのコミュニティの参加と創造的表現の力を示しました。芸術、詩、および直接的な行動を組み合わせることで、私たちのイニシアチブは廃棄物管理に対処するだけでなく、より大きな環境意識に向けた文化的シフトチェンジも促進しています。共に、私たちは将来の世代のために地球を守るという集団的な責任を意識し合い、変化への統一された願望と、よりクリーンで持続可能な世界への取り組みを示しています。全体として、私たちは250,679人の参加者という大規模な動員を達成しました。



# グローバルプロジェクトとキャンペーン

## SEEP タンザニアとナミビア

サステナブル環境教育プログラム (SEEP) は、Let's Do It World によって創設・運営されており、近年ではナミビア (Let's Do It Namibia) やタンザニア (Nipe Fagio) で実施されています。

このプロジェクトは非常に意欲的な取り組みであり、Let's Do It Worldのネットワーク内で、今後さらに多くのアフリカ諸国へと展開していくよう計画しています。国連の持続可能な開発目標 (SDGs) に沿ったこのプログラムは、環境に配慮した行動のベストプラクティスの認識を高めることを目的としています。特に、固形廃棄物管理、気候変動、そして循環型経済への移行の基盤づくりに焦点を当てています。

2023年、SEEP (サステナブル環境教育プログラム) は、すべての教育用ランディングページとツールキットを完全デジタル化し、プロジェクトの内容を刷新しました。タンザニアとナミビアでは、SEEPプロジェクトが50校と連携し、教育とエンパワーメント



の推進役を担う学校を育成しました。この取り組みにより、環境教育のメンター (指導者) の支援を受けながら、各学校でグリーンプロジェクトの開発が進められることが期待されています。

最も成功したプロジェクトはメディアで紹介され、地元当局の支援も受けています。Let's Do It Worldは、このSEEPプロジェクトモデルをLet's Do It Worldネットワーク内のさらなる国々へと拡大していく可能性に大きな期待を寄せています。

このプログラムは、環境投資センター ([Environmental Investment Centre](#)) から支援を受けています。



## デジタルクリーンアップデー2024

2024年3月16日、第5回デジタルクリーンアップデーが開催されました。

毎年このキャンペーンを通して、個人、組織、コミュニティの皆さんに対し、デジタルライフスタイルを見直し、使っていないアプリや不要なメール、画像、ファイルの整理、ニュースレター購読解除など、簡単な手順で不要なデータを削除しようと呼びかけています。

この前向きな取り組みは、CO<sub>2</sub>排出量の削減につながり、気候変動の進行を抑えることに貢献します。実際、インターネットとその関連システムによって、毎年約10億トンのCO<sub>2</sub>が排出されています。

2024年の結果では、98の国と地域から315,097件の登録があり、合計1,829,132GBのデータが削除されました。これにより、457,283kgのCO<sub>2</sub>排出を防ぐことができました。

2024年のキャンペーン結果により、延べ登録数は100万件を突破し、この活動への関心が年々高まっていることが明らかになっています。

現在までに、118万4,717人がデジタルクリーンアップデーに参加し、5年間のキャンペーンを通して、175の国と地域で合計1,450万GB以上のデータが削除されました。

### 参加国のうち上位5カ国

290,145  
フランス

5,470  
ベルギー

2,345  
ブルガリア

1,573  
イタリア

1,404  
イギリス

### データを多く削除した国

フランス

ブラジル

スロベニア

スイス

イギリス

データ削除の大部分はこれら5カ国からでした。



## アジア・リーダーズ・カンファレンス

World Cleanup Dayアジア地域カンファレンスが、マレーシアのペナンにてLet's Do It マレーシア(LDIM)の主催で開催されました。

この4日間のイベントには、18カ国から250人の参加者が集まり、World Cleanup Dayキャンペーンのインパクトモデルと持続可能性をテーマに議論が行われました。Let's Do It Worldネットワークの各国リーダーをはじめ、多くの専門家が登壇し、シンガポール、日本、インドなどの国々の教育プロジェクトとともに、さまざまなワークショップを通じてベストプラクティスを共有しました。

また、マレーシアの環境管理分野の主要人物によるプレゼンテーションが行われ、午後のセッションでは、若者のエンパワーメントを目的としたユースフォーラムが開催されました。この会議はアース・マンス (Earth Month) に合わせて行われ、参加者はESG (環境・社会・ガバナンス) やCSR (企業の社会的責任) の影響について意見を交わし、地域社会との効果的な連携に向けた課題と戦略について議論しました。

イベントのハイライトの一つは、地域住民と参加者が協力して行った植樹活動でした。この取り組みでは、165,000本以上の木が植えられ、1日で100万本の植樹を目指す大規模なプロジェクトの一環として実施されました。この活動は、会議の協力の精神を象徴するものであり、すべての参加者が「収集・リサイクル・再利用」の原則を実践する姿勢を共有しました。

知識の共有も会議の中心的なテーマの一つであり、廃棄された物をリサイクルしてファッションアクセサリーに再生するプロジェクトなどの革新的な取り組みが紹介されました。会議の締めくくりとして、アップサイクル (再生利用) された衣服を披露する華やかなファッションショーも開催されました。

さらに、ペナン島市議会の市長 ダトゥク・ラジェンドラン・P・アンソニー氏がレセプションを主催し、Let's Do It マレーシアチームの功績を称えました。市長は、ペナンが戦略計画のもとでグリーンシティ (環境に配慮した都市) へと発展することへの期待を表明しました。

最終日には、リサイクルとアップサイクルの重要性を強調する閉会スピーチが行われました。リーダーたちは改めて、廃棄物管理システムの統合や、気候変動対策のためのボランティア活動の推進に取り組む決意を明らかにしました。また、マレーシア人道支援財団 (Malaysian Humanitarian Foundation) は、再利用可能な製品を生産するためのプラスチックリサイクル施設の設立を主導する取り組みを進めています。

この会議を通じて、Let's Do It Worldのファミリーとしての結束が強まり、参加者に大きなインスピレーションを与えました。また、アジアのリーダーたちが持続可能な社会の実現に向けて協力し、よりクリーンな世界を目指す姿勢が改めて示されました。イベントは、World Cleanup Day 2024に向けた期待と熱意の高まりの中で締めくくられ、このムーブメントの団結とモチベーションをさらに強化する機会となりました。Let's do it!



## アジア・リーダーズ・アカデミー

2024年7月、大阪はLet's Do It Worldのアジア各国のリーダーが集う場となりました。Let's Do Itアジア・リーダーズ・アカデミーは、絆を深め、協力を促進し、さらなる成長を目指すために開催されたイベントです。

この影響力のあるイベントには、15か国の熱意あふれる参加者が集結し、環境保護を推進する共通の使命のもとに団結しました。NPO法人WORLD CLEANUP DAY JAPANが主催し、インドネシア、台湾、シンガポールの主要リーダーの支援を受けて行われたこのアカデミーは、Let's Do Itアジアのチーム間の協力関係の強化、地域ごとの課題の理解、ベストプラクティスの共有、そして日本の先進的な廃棄物管理戦略の学習を目的として行われました。

このイベントは、協力的な雰囲気を作り出すためのハイレベルな事前会合からスタートしました。エストニア出身のLet's Do It World会長 ヘイディ・ソルバ (Heidi Solba) 氏は、駐日エストニア共和国大使館を訪問し、マイト・マルティンソン大使 (Mait Martinson) と会談しました。この訪問には、NPO法人WORLD CLEANUP DAY JAPANの浅井孝夫代表と荒井秀子副代表も同行して国際的な協力の重要性を強調し、その後の環境省環境管理局の中山直樹局長との会合では環境省からの支援の約束ももらうことができました。

アカデミーでは、同志社大学大阪サテライトキャンパスで会議が開催されました。この会議は、浅井孝夫代表やインドネシアのリーダー、アウグスティーナ・イスカンダル・クロムパッハ (Agustina Iskandar Crombach) 氏をはじめとする主要人物のスピーチで開幕しました。環境問題に関する専門家の講演が行われ、アジアのWorld Cleanup Day活動が直面する主要課題を整理し、持続可能な解決策を模索するワークショップが実施されました。リーダーたちは協力しながらブレインストーミングを行い、ゼロ・ウェイスト(ごみゼロ)を実現するための効果的な手法について議論を深めました。



特に注目を集めたのは、参加者が気候変動を深く理解し、行動を起こす意欲を高めることを目的とした「Climate Fresk」のワークショップでした。さらに、ソーシャルメディア戦略のベストプラクティスや国連プラスチック条約に関する議論といったセッションが行われ、各国の知識共有と協力を促進しました。また、参加者は大阪市内の革新的なリサイクル技術やリバースペンディングマシン（自動回収機）の導入事例を視察し、地元の環境活動を学びました。

会議の締めくくりとして、淀川沿いでの清掃活動が行われました。これは、「話すより行動を (Less talk, more action)」というLet's Do It Worldの精神を体現するものでした。猛暑の中でも、リーダーたちは腕まくりして、川ごみに立ち向かいました。この活動は、国境を越えて広がる環境問題への緊急対応の必要性を訴える象徴的な取り組みとなりました。

希望者向けの視察として、上勝町ゼロ・ウェイストセンターの訪問が行われました。この視察では、先進的な廃棄物管理戦略を学ぶ貴重な機会が提供され、町がごみを45種類に分別し、リサイクル率を最大化しながら埋立て処分を最小限に抑えている取り組みが紹介されました。この実践的なアプローチは、他の地域にとっても大きなインスピレーションとなりました。

このアカデミーは、Let's Do It Worldネットワークに新たな活力をもたらし、多様なバックグラウンドを持つリーダーたちが協力して新たなサステナブルモデルを共創する機会となりました。また、World Cleanup Day 2024の準備に向けた確固たる基盤を築く場ともなりました。この集まりを通じて、参加者間で素晴らしいチームワークと共通の目的意識が再確認され、日本の浅井孝夫代表率いる運営チームや、このイベントの成功に貢献したすべてのパートナーに対して、心からの感謝が述べられました。最後に、アカデミーは環境の持続可能性に専心する世界的なムーブメントを育む上で重要な一歩となり、関係者全員に、一緒に地球に大きな変化をもたらしていることを思い出させました。

## アドボカシー活動

### ノルウェー・トロムソ市で初の World Cleanup Day記念イベント



World Cleanup Day 2024は、2023年12月の国連総会で歴史的な登録承認を受けた後、グローバル環境活動の象徴として開催されました。Let's Do It Worldとそのグローバルネットワークの活動は、正式に国連のカレンダーに登録されました。国連総会決議A/78/122により、9月20日がWorld Cleanup Dayの公式な国連国際デーとして制定され、各国、各都市、さまざまなステークホルダーが年間を通して継続的に取り組むクリーンアップ活動のグローバルムーブメントが正式に認められました。この承認は、環境保全と循環型経済の原則に対する世界的な関与を強め、地域社会が持続可能な変革を推し進める力を与えるものです。

2024年、初めて国連カレンダーに登録されたWorld Cleanup Dayの公式記念イベントは、「北極圏への玄関口」として知られるノルウェーのトロムソで開催されました。このイベントには、世界の環境リーダー、科学者、活動家が集結し、「北極圏の都市と海洋汚染」という重要なテーマのもとで議論が行われました。この歴史的なイベントは、国際機関、都市、地域社会が協力することで、意義ある環境変革を推し進めることができることを示す象徴的な機会となりました。

トロムソでの記念イベントは、Let's Do It World (LDIW) と共に主要な運営組織として極めて重要な役割を果たしているUN-Habitatの主導のもとで開催されました。この協力関係は、廃棄物管理が都市環境における重要な課題として認識されつつあることを示しています。イベントの主要な支援者は、ノルウェー小売業環境基金 (NREF: Norwegian Retailers' Environment Fund) ですが、ノルウェー地方自治・地域開発省、トロムソ市、フラムセンター (Fram Centre) などの国連環境計画地球資源情報データベースセンター (GRID-Arendal) からも追加の支援を受けました。このイベントを通じて、国際協力が環境アクションを推進する強力な原動

力となることが改めて強調されました。

Let's Do It Worldの会長兼グローバルネットワーク責任者であるヘイディ・ソルバ (Heidi Solba) 氏は、164か国のネットワークを代表し、ラウンドテーブル討論会への参加、基調講演の実施、インタビューへの対応を行ないました。彼女は、これらの場でクリーンアップ・ムーブメントが世界に与えている影響の大きさを訴え、このムーブメントのグローバルな広がりと重要性を強調しました。

この日の大きな特徴の一つは、タリンに設置された「コール&メディアセンター」からの革新的なライブ放送でした。この放送では、Let's Do It World (LDIW)のネットワーク全体と、世界各地で開催されたWorld Cleanup Dayのイベントが紹介され、Let's Do It Worldの記念イベントの一環として配信されました。1年間の準備期間を経て、世界中で数百万人がLet's Do It World主導のWorld Cleanup Day活動に参加しました。また、このライブ放送は、ノルウェーのトロムソとエストニアのタリンを結び、UN-HabitatのYouTubeチャンネルやWCDの公式プラットフォームを通じて配信されました。

会議では、北極圏の汚染に関する科学的側面と、その実践的な解決策が議論されました。

この重要な環境問題について、専門家が集まり意見を交わしました。特に焦点が当てられたのは、北極圏が「地球規模の汚染の最終地点 (pollution sink)」という役割を担われていることです。世界中から排出されたごみや汚染物質が、海流や大気の流れを通じて北極圏に蓄積される現象について議論が行われました。

イベントの締めくくりとして、国連環境計画地球資源情報データベースセンター主導で展示会が開かれ、ノルウェーが海洋汚染対策において培ってきた専門知識が紹介されました。

この初めての国連カレンダー登録イベントは、北極圏の深刻な汚染問題を浮き彫りにすると同時に、国連機関、Let's Do It Worldのような国際ネットワーク、ローカル組織が連携することで、世界規模の環境アクションを推進できることを実証しました。科学的な議論、政策討論、実践的なクリーンアップ活動を組み合わせることで、環境変革への包括的なアプローチを体現し、地域レベルの行動が世界的な影響へとつながることを示すとともに、サステナブルな環境解決策に必要な分野横断的な協力の促進が図られました。

トロムソでのこの成功は、今後のWorld Cleanup Dayの模範となる、重要な前例を築いたと言えます。

## タリンのWorld Cleanup Day コール&メディアセンター

2024年9月20日から21日にかけて、エストニア・タリンに「World Cleanup Dayコール&メディアセンター」が設置され、世界中の視聴者に向けて11時間にわたる生放送が行われました。

番組の司会はコルム・フリン (Colm Flynn) 氏が務め、タリンのLet's Do It World本部から配信されました。この番組は、世界各地で環境活動家たちがクリーンアップを実施する様子を、日の出とともに追いながら放送する形式で進行了。また、タリンとノルウェー・トロムソを結ぶ特別な中継が行われ、World Cleanup Dayが国連デーに正式登録されたことを祝う、国連主催の初の記念イベントもライブ配信されました。

この壮大な放送計画を実現するため、11時間のスタジオ番組が制作され、音響・映像制作専門チームによって現地にスタジオが設置されました。番組では、スタジオでのライブインタビュー、ビデオ映像、ゲストとのディスカッションなど、コール&メディアセンターのチームが制作した多彩なコンテンツが放送されました。



放送プログラムの内容は、World Cleanup Dayの現場からのLet's Do It World各国リーダーによる15本のライブインタビューやネットワーク内で事前収録された約40本のビデオ、アンバサダー、パートナー、科学者、政府関係者からの18本のメッセージ動画などで構成されました。さらに、World Cleanup Dayを祝うアンバサダーやサポーターによる素晴らしいパフォーマンスも披露され、番組を通じて、Let's Do It Worldの理念に深く共感し、実際に行動している世界中の人々の声を届けました。

コール&メディアセンターは、9月20日の朝6時から、9月21日の夕方5時まで運営されました。この2日間で、19人のボランティアと本部チームメンバーが、60か国以上のリーダーに電話をかけ、各国のクリーンアップイベントの進捗を確認し、そのハイライトを本部に報告しました。また、本部チームとボランティアは、世界中の活動を紹介するブログ記事やソーシャルメディア投稿も制作し、クリーンアップの成果を広く発信しました。

この放送の記録は[World Cleanup DayのYouTubeチャンネル](#)で視聴できます。

ぜひ、リラックスしながらスナックを片手に楽しんでください!



# パートナーシップ

## エストニア共和国政府



REPUBLIC OF ESTONIA  
GOVERNMENT

エストニア共和国政府は、World Cleanup Dayが2024年より毎年9月20日が国連の国際デーとして承認されるための強力な支援者でした。Let's Do It World NGOの設立以来、エストニア政府は、Let's Do It World本部およびこのムーブメント全体にとって、

重要かつ継続的な支援パートナーとしての役割を果たしてきました。

2024年9月20日、15か国以上のエストニア大使館がWorld Cleanup Dayに参加し、世界的なごみ汚染問題への取り組みに対する強い意志を示しました。

日本をはじめ、イタリアからインド、中国からチェコ共和国まで、エストニアの大使館員が世界中の何百万ものボランティアとともにクリーンアップ活動を行い、環境に対する責任の重要性についての認識を高める協力をしました。

これほど多くのエストニア大使館が参加したことは、World Cleanup Dayの影響力を拡大させただけでなく、外交がポジティブな環境活動を促進する重要な役割を果たすということを示すものにもなりました。

## 国連ハビタット(国際連合人間居住計画)

今年、Let's Do It World (LDIW) は大きな節目を迎え、国連ハビタットと「ナレッジ・パートナー」提携を正式に確立する覚書を交わしました。この合意により、これまでの協力関係がさらに強化されるだけでなく、世界的な環境の持続可能性と責任ある廃棄物管理の推進に向け、強固な枠組みが構築されました。

この覚書は、2019年来長期にわたって、国連ハビタットがLet's Do It Worldの「クリーンでごみのない地球を実現する」という使命を支援してきた、そのパートナーシップに基づいたものです。特に、2024年9月20日にノルウェーのトロムソで開催されたWorld Cleanup Dayの初の国連公式イベントは、この協力関係の大きな成果の一つとなりました。このイベントは、World Cleanup Dayが国連国際デーとして公式認定され、私たちの共同の取り組みが重要であることを世界に改めて示しました。

持続可能な都市とコミュニティの発展を促進することを使命とする国連ハビタットとLet's Do It Worldの環境に配慮した廃棄物管理やインフラ整備の向上はシームレスに一致しています。両者は互いにコミュニティの規模からグローバルな規模へと影響を拡大させ、効果的な廃棄物管理の解決策を創り上げることを目指しています。

Let's Do It Worldが「ナレッジ・パートナー」となることで、ごみ問題に対処する専門知識を取り入れて、世界規模でのごみの課題に取り組む体制が整いました。知識の共有と能力開発を通して、コミュニティや廃棄物管理のリーダーたちが持続可能な実践ができるよう支援していきます。また、循環型経済モデルの推進、責任ある消費の奨励、大規模なクリーンアップ活動を通じた革新的なごみ対策の確立にも重点を置いていきます。

Let's Do It Worldの会長兼グローバルネットワーク責任者であるヘイディ・ソルバ (Heidi Solba) 氏は、2020年より国連ハビタットの都市の廃棄物管理問題に取り組むプログラム「ウェイスト・ワイズ・シティーズ (Waste Wise Cities)」諮問委員会のメンバーを務め、革新的な廃棄物管理方法に関する議論に積極的に寄与しています。

今後、国連ハビタットとの協力関係強化による貴重な知識や技術的専門知識を得ながら、Let's Do It Worldはより多くのステークホルダーを巻き込み、世界的なごみ問題への持続可能な解決策を推進していきます。

**UN HABITAT**  
FOR A BETTER URBAN FUTURE

## 国連SDGs

国連SDGアクションキャンペーン (UN SDG Action Campaign) は、1,700以上の組織と連携し、幅広い普及活動、創造的なアクション、イベント、パフォーマンスを通じて、世界中の何百万もの人々を巻き込みながら、持続可能な開発目標 (SDGs) 達成に向けた取り組みを推進しています。Let's Do It Worldは、このUN Act4SDGsキャンペーンの「招集パートナー (Convening Partner)」としての役割を果たしました。

SDGsに向けたアクションを推進する「#Act4SDGs グローバルウィーク」は9月に開催され、Let's Do It World も、World Cleanup

Dayをはじめとするさまざまな取り組みを通じて毎年継続的に貢献しています。この連携はSDGsを大きく進展させ、人々と地球のために意義ある変化を生み出してきました。

国連SDGアクションキャンペーンと Let's Do It Worldは、定期的に戦略会議を開催し、さらなる協働の可能性を模索しています。2023年には、World Cleanup Dayが「卓越した動員活動」の功績を認められ、国連SDGアクションアワード (UN SDG Action Award) を受賞しました。



## 国連環境計画

Let's Do It Worldは、国連環境総会 (UNEA) においてオブザーバー資格を持つ認定非政府組織 (NGO) です。この認定は、Let's Do It Worldが世界的な環境保護活動に尽力していることを示す重要な証です。認定メンバーとして、Let's Do It Worldは他の国際的なパートナーと積極的に協力し、環境の持続可能性や意識向上に関する共通の目標の達成に向けて取り組んでいます。

## 欧州連合

今年、Let's Do It World (LDIW) は「ヨーロッパ気候協定 (European Climate Pact)」のパートナーとして招待されました。この提携は、クリーンでごみのない世界を目指す Let's Do It Worldのビジョンを強化するだけでなく、環境の持続可能性において見落とされがちな、ごみ問題と気候変動の密接な関係に光を当て、注目を集める機会となりました。

ヨーロッパ気候協定は、「欧州グリーンディール (European Green Deal)」の中核をなす取り組みです。2050年までに気候中立なヨーロッパを実現するために、個人や組織が協力して行動することの重要性を強調しています。この協定は、市民に対し、気候対策に積極的に参加し、経験を共有し、持続可能な生活へ移行するよう呼びかけています。Let's Do It Worldは「気候協定パートナー」として、ごみと気候変動という両方に関連する危機に取り組むため、政策立案者、企業、地域社会を含む多様なステークホルダーと連携し、革新的な解決策を推進していきます。

Let's Do It Worldの大規模なクリーンアップ活動をはじめとする取り組みは、コミュニティの意識を高め、参加を促すことを目的として



います。これにより、地域レベルでの行動が世界的な影響をもたらす可能性を示すと同時に、クリーンアップ活動を超越して持続可能な未来に貢献することを目指します。

Let's Do It Worldはヨーロッパ気候協定とのパートナーシップを通して、コミュニティで持続可能な廃棄物管理を実践し、資源効率を高めることを後押ししていきます。ステークホルダーたちを結びつけて、ごみの削減を気候行動の中心に据えたヨーロッパを実現し、最終的には、人々と地球にとって持続可能な未来を築くことを目指します。

## ファンディング

本年度報告書では、Let's Do It World本部の資金提供者のみを取り上げます。世界中のほぼすべての国でクリーンアップ活動を実施している Let's Do It World の各国チームの活動は、国ごとに異なる

資金源によって個別に運営されています。

皆様のご支援に心より感謝いたします！

### 企業パートナー

Let's Do It World (LDIW) は、多くのサステナブルな企業と長年にわたりパートナーシップを築いてきました。以下の皆様に、心からの感謝を申し上げます。

私たちの法的パートナーであるHedman Law Firmは、Let's Do It World本部の法務問題を支援しています。この分野での多大なご支援に、深く感謝いたします。

Vain ja Partnerid OÜのPeep Vain 氏に、寛大な財政支援と、Let's Do It Worldと共に環境活動を推進するためにご尽力いただいたことに、心より感謝いたします。この献身的な支援は、私たちの使命を前進させ、地球のための取り組みに大きな影響をもたらす重要な役割を果たしています。



大切なパートナーである NORQAINは、World Cleanup Day 2024のために限定版ウォッチを発表し、その売上の一部をLet's Do It World本部に寄付してくださいました。NORQAINのご支援に心より感謝申し上げます。



また、エストニアに拠点を置くMapri EhitusやEuroparkなどの組織にも、Let's Do It World本部への毎年の多大な支援に感謝の意を表します。



Hydroscand Groupには、Let's Do It World本部およびLet's Do It Worldウクライナへの支援をいただき、心より感謝いたします。



## 開発サポート

Let's Do It World (LDIW) は、世界中の何百万もの人々が参加している実動ベースのプロジェクトです。Let's Do It Worldの各国リーダーは、World Cleanup Day、Digital Cleanup Day、その他の地域プロジェクトを企画・運営する人たちであり、市民活動、廃棄物管理、循環型経済、環境問題など、さまざまな分野の専門家でもあります。貴重な知識をグローバルに共有することを最大化するため、Let's Do It Worldは一つの戦略として「LDIWトレーニング&

開発センター」を設立することを決定しました。

このプロジェクトの目的は、「LDIWトレーニング&開発センター」の開発に向けたビジネスプランを策定することでした。外部専門家と協力しながら進められたこのビジネスプランの策定は、エストニアの国立市民社会基金 (KÜSK) の支援を受け、4,000ユーロの資金提供を受けて実施されました。



## 動員パートナー

Let's Do It Worldは、世界中に数千を超えるパートナーのネットワークを誇り、ローカルレベルでもグローバルレベルでも強い影響力を持っています。これらのパートナーの多くは、複数の大陸や国にまたがるグローバル規模で活動しています。

Let's Do It Worldは、World Cleanup Dayへの参加を奨励し、

環境問題への理解を深め、個人や組織が積極的に参画することを勧めているすべての企業・団体に心からの感謝を表します。

また、私たちは、グローバルパートナーの皆様が共有してくださった貴重な見解を紹介できることに深い感謝の意を込めて、お礼を申し上げます。

## アースデイ・ネットワーク

世界最大級の環境団体である Let's Do It Worldと Earth Day (アースデイ)は、ごみのない世界を目指して協力しています。アースデイの使命は、環境保護活動を多様化し、教育を推進し、世界中で環境運動を活性化することです。この取り組みは、1970年の最初のアースデイに端を発し、現在では earthday.org を通じて、192か国・15万以上のパートナーと連携しながら環境民主主義を推進する、世界最大級の環境団体のひとつとなっています。

現在、世界中で10億人以上が毎年アースデイの活動に参加しており、これは世界最大規模の市民参加型イベントとなっています。過去

4年間にわたり、Earth Day NetworkとLet's Do It Worldは、主力プロジェクトを通じて協力し、廃棄物管理の不備による世界的な危機への意識を高めることを優先課題として取り組んできました。



## ワールド・ウェルネス・ウィークエンド

ワールド・ウェルネス・ウィークエンド (World Wellness Weekend, WWW) は、150か国以上で活動し、数百万人もの人々に対して、定期的な運動習慣を取り入れることを奨励しています。WWWでは、フィットネスクラス、ヨガ、アウトドアアクティビティ、マッサージワークショップなどの無料プログラムを提供し、地域社会をつなげ、新たなウェルネス習慣を紹介することを目的としています。また、各国の政府大臣や地方自治体の首長の積極的な支援を受けて実施されています。

World Cleanup Dayは、直接的にウェルネスを目的としたキャンペーンではありませんが、「クリーンで健全な、ごみのない世界」を最終目標とし、地球とそこに暮らす人々の健康を常に活動の中心に据えています。

この2つの取り組みの協力関係は、「真のウェルネス」とは、心と体

の内面的な健康だけでなく、私たちを取り巻く外的な環境の健康も含む、という重要な真実を示しています。どちらか一方だけでは成り立たないのです。



World Cleanup Dayへの参加を促し、多くの人々を動員してくださった数千もの組織の皆様にも、心から感謝申し上げます。

### 個人寄付者

Let's Do It World の広がり続ける2024年の寄付者コミュニティの一員となってくださった皆様に、心より感謝申し上げます。皆様からの直接的なご支援は、地球を守り、サステナブルな新しい世界を築くための私たちの取り組みを前進させる上で、極めて重要な役割を果たしています。

### 皆様こそ、真のヒーローです。

特に、トミー・クヌッツ (Tommy Knuts) 氏とアラリ・アホ (Alari Aho) 氏の長年にわたる継続的なご支援に、心からの感謝を申し上げます！

- ・ Nguyen Chau氏
- ・ Wika Prayogi氏
- ・ Adam Smith氏
- ・ Daniela Ferrario氏
- ・ Sara Arrhenius氏
- ・ Martin Pöld氏
- ・ Toomas Trapido氏
- ・ Renee Ellis氏

皆様のご支援に心より感謝いたします！



## 支援・協力パートナー

LET'S DO IT WORLD は、すべてのパートナーの皆様に心より御礼申し上げます。本当にありがとうございます！

### グローバルパートナー



## 支援パートナー



## 動員パートナー



# 重要業績評価指標 (KPI)

<p><b>World Cleanup Day 参加者数</b></p>	<p><b>人口参加率5%超の World Cleanup Day 参加国数</b></p>	<p><b>World Cleanup Day 参加国数</b></p>	<p><b>World Cleanup Dayで 回収された ごみの量</b></p>
<p>概要 World Cleanup Dayに 合計何人がごみ拾いに来たか</p> <hr/> <p>方法 World Cleanup Dayの コールセンターと国別報告及び メディアモニタリング</p> <hr/> <p>2024年の目標 参加各国の人口5%</p> <hr/> <p>2023年の結果 <b>2,300万人</b></p>	<p>概要 Let's Do It Worldネットワークの うち国民の5%以上が 参加した国数</p> <hr/> <p>方法 Let's Do It World各国 リーダーからの World Cleanup Day報告書</p> <hr/> <p>2024年の目標 30カ国</p> <hr/> <p>2024年の結果 <b>4カ国</b></p>	<p>概要 World Cleanup Dayに 何カ国が参加したか</p> <hr/> <p>方法 Let's Do It Worldネットワーク の国、Let's Do It Worldパート ナーによって動員された国、World Cleanup Dayウェブページでの 報告、メディアモニタリング</p> <hr/> <p>2024年の目標 190カ国</p> <hr/> <p>2024年の結果 <b>191カ国</b></p>	<p>概要 World Cleanup Dayで 何トンごみが収集されたか</p> <hr/> <p>方法 Let's Do It Worldネットワーク の国、Let's Do It Worldパート ナーによって動員された国、World Cleanup Dayウェブページでの 報告、メディアモニタリング</p> <hr/> <p>2024年の目標 100万トン</p> <hr/> <p>2024年の結果 <b>164,585トン</b></p>
<p><b>公共機関が World Cleanup Dayに 関与した国の割合</b></p>	<p><b>ソーシャルメディアの フォロワー数</b></p>	<p><b>デジタル英語 メディアのリーチ (年間)</b></p>	<p><b>ネットワーク内リーダーの 幸福度 (10段階評価)</b></p>
<p>概要 公共機関、政府関係者が国、 または地域レベルで資金調達、 クリーンアップ、 コミュニケーション面に協力、 参加した国の割合</p> <hr/> <p>方法 ネットワーク調査</p> <hr/> <p>2024年の目標 行政 <b>80%</b> 大統領・首相 <b>20%</b> 大臣 <b>60%</b></p> <hr/> <p>2024年の結果 行政 <b>63%</b> 企業代表 <b>55%</b> 大統領 <b>1%</b> 首相 <b>2%</b> 環境大臣 <b>23%</b> その他の大臣 <b>19%</b></p>	<p>概要 ローカルネットワークチャンネルと World Cleanup Dayグローバル チャンネルの両方の 合計フォロワー数</p> <hr/> <p>方法 ソーシャルメディアとデータ分析</p> <hr/> <p>2024年の目標 Facebookメインページ: <b>200,000</b> Instagram: <b>70,000</b> X (旧Twitter): <b>3,000</b> TikTok: <b>10,000</b></p> <hr/> <p>2024年の結果 Facebookグローバル: <b>151,000</b> Instagram: <b>52,800</b> LinkedIn: <b>3,000</b> TikTok: <b>286</b> YouTube: <b>12,200</b> Facebook総数: <b>1,700,000</b></p>	<p>概要 World Cleanup Dayの ソーシャルメディアと Let's Do It Worldネットワーク 国全体でのリーチ数</p> <hr/> <p>方法 ソーシャルメディアとデータ分析</p> <hr/> <p>2024年の目標 <b>5,000億</b></p> <hr/> <p>2024年の結果 <b>該当なし</b></p>	<p>概要 リーダーが自分のしている仕事が どれだけインパクトがあり、 どれだけ強くネットワークに 属していると感じているか、 またそれ相応の評価を得ている と感じているか、など</p> <hr/> <p>方法 ネットワーク調査</p> <hr/> <p>2024年の目標 <b>8.0</b></p> <hr/> <p>2024年の結果 <b>7.65</b> (98カ国)</p>



# Thank you!

